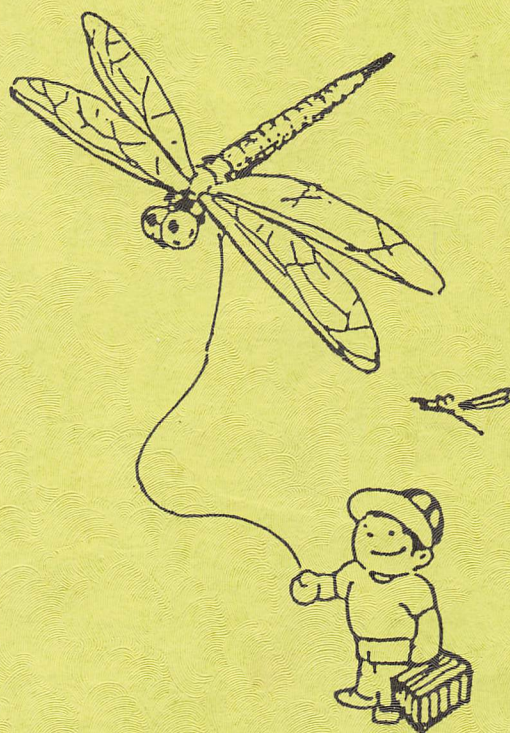


— 姫昆サロンニュース100号記念 — 特別号

遊蟲千年



姫路昆虫同好会

表紙解説

題字 「遊蟲千年」

趣味として永遠に虫と遊ぶことを意味している。虫は昆虫だけではなく蟲の本字を用いることにより、ありとあらゆる虫を意味し含んでいる。これは、姫路市にある東光寺の住職に揮毫していただいた書の字であり、播磨昆虫民俗資料館・極楽とんぼの館に扁額として飾ってある。

絵 「とんぼ釣り」

西はりまのトンボ（赤穂市立海洋科学館発行 1991-7月）のはりまに残るトンボ釣り唄に使用されたもので、上記資料館極楽とんぼの館のトレードマークとして使用している。

《 目 次 》

広畑政巳・近藤伸一：	兵庫県産蝶類分布資料（6）	
	ーセセリチョウ科6種の記録ー	1
相坂耕作	郷土の昆虫風について	13
五十嵐喜昭	サツマシジミ・ヤクシマルリシジミ・ミカドアゲハ奮戦記	25
大貝秀雄	塩田跡人工林の謎	26
花岡正	クロサワヒメコバネ大珍品の名を返上する	27
花岡正	カンボウトラカミキリケヤキより羽脱	27
花岡正	キイロアラゲカミキリ音水溪谷のカラスザンショウより羽脱	28
花岡正	カエデノヘリグロカミキリの遅い採集記録	28
花岡正	オオヒカゲを波賀町戸倉にて目撃	28
花岡正	ジョウザンミドリシジミの追飛を目撃	28
広畑政巳	市川町で採集したゼフィルス数種の記録	29
唐土洋一	相生市のクロコノマチョウ（その1）	30
唐土洋一	ヒメコブヤハズカミキリ採集記	31
唐土洋一	兵庫県西部におけるムラサキツバメの現況	32
山下剛史	神戸市近郊における注目すべき蝶5種の採集記録	36
鈴木一由	日生学園第三高等学校の自然誌発行を計画	37
五十嵐喜昭	ウスイロヒョウモンモドキ採集記	38
五十嵐喜昭	クロコノマチョウ採集記録	38
相馬明直	兵庫県におけるマダラゴマフカミキリの記録	39
広畑政巳	クロコノマチョウ採集記録2例	39
三木順一	ハチのニュース	40
相坂耕作	オオセンチコガネ姫路市での記録	40
相坂耕作	朝鮮半島南部のモンヘビトンボについて	41
相坂耕作	播磨の昆虫カマキリ分布資料	44
相坂耕作	朝鮮半島南部の蜻蛉相一資料	52
相坂耕作	極楽とんぼの館・播磨昆虫民俗資料館案内	56
	遊蟲千年寄稿者一覧	60
	編集後記	61

兵庫県産蝶類分布資料（6）

－セセリチョウ科6種の記録－

広畑政巳・近藤伸一

はじめに

アゲハチョウ科、タテハチョウ科、シジミチョウ科などの美しい蝶は愛好者は多いが、セセリチョウ科の蝶は地味で変異も少なく、興味を持つ人も少ないのが現状である。

そのような訳で採集記録は予想以上に少なく、県下の記録としてまとめるはみものの不完全なものになってしまった。

この度は、県下に生息するセセリチョウ科の蝶のうち、比較的珍しい6種について採集記録を、各産地1例づつをあげ、気付いたことを付記した。分布図については、場所の明確でない所を省いている。

なおこれまでに発表している採集場所の記録のうち杉ヶ沢を関宮町と報告していたが、杉ヶ沢は大屋町内であることが判明したため訂正したい。

本資料以外にも産地は多くあると思われるので、本稿は今後の調査の基礎資料として御活用いただき、不備を補っていただきたい。

本稿を草するに当たり、次の方々には、採集記録を御提供いただき、産地の状況等をご教示いただいた。ここに記してお礼申し上げる。

相坂耕作、石井為久、岩村 巖、尾崎 勇、小野克巳、木下賢司、木村三郎、酒井正敏、佐々木勲、佐藤邦夫、高島 昭、高嶋 明、高橋邦明、徳岡正巳、永幡嘉之、苦木隆幸、西 隆広、春井博文、平尾栄治、松尾隆人、松野 宏、松村邦正、森下泰治、山口福男、山下剛史、山本正勝、杠 隆史、米村和繁

I セセリチョウ科6種の分布状況

1 キバナセセリ

(1) 分布

県下での採集記録は極めて少なく、これまでに8例が知られているだけで、三国岳以外はいずれも北西部の山地となっている。

福原孝好（1977）によると、1955年 8月 2日～ 5日に氷ノ山越 800～1,000 mで2頭の目撃記録が福知山高校生物倶楽部のPLANKTON特別号の報告で発表されているようで、これが県下の最初の記録である。

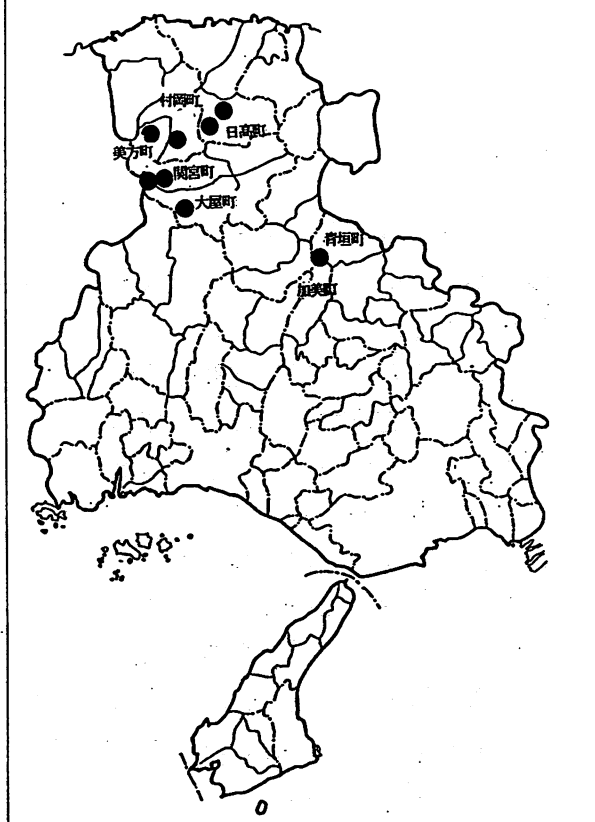
また三国山麓の記録は、山本・吉阪(1965)に岡本 清氏が多可・氷上郡境の三国岳の北麓で見たらしいということが記されている。

その後も採集記録は幾つか現れ、近年には永幡嘉之氏の精力的な調査によって関宮町福定、美方町小代溪谷などの新しい産地が見つかったが、いずれの産地も個体数は少ない。

採集場所の標高は400 m～1,000mであるが、記録数が少なく、正確な垂直分布の確認には今後の調査を待ちたい。

本種の食樹ハリギリは紅谷(1971)によると、丹波の竜蔵寺山にもあるようなので、ハリギリの分布調査と併せて調査をすることで、新しい産地の発見を期待したい。

図1 兵庫県に於けるキバネセセリの分布



(2) 採集記録

東播磨地区

三国岳山麓

(目撃)

岡本 清 (2)

北但馬地区

城崎郡日高町金山 1 ♂

16. VII. 1978 木下賢司 (1)

〃 〃 名色林道 1 ♂

18. VII. 1978 木下賢司 (4)

美方郡村岡町兎和野 1 ♂

26. VIII. 1973 福原孝好 (3)

〃 美方町小代溪谷 1 ♂

7. VIII. 1992 永幡嘉之 (32)

南但馬地区

養父郡大屋町若杉 1 ♂

12. VII. 1960 中尾 淳 (2)

〃 関宮町福定 1 ♂

15. VIII. 1988 永幡嘉之 (32)

〃 〃 氷ノ山 1exs(目撃)2～5. VII. 1955 (3)

2 ギンイチモンジセセリ

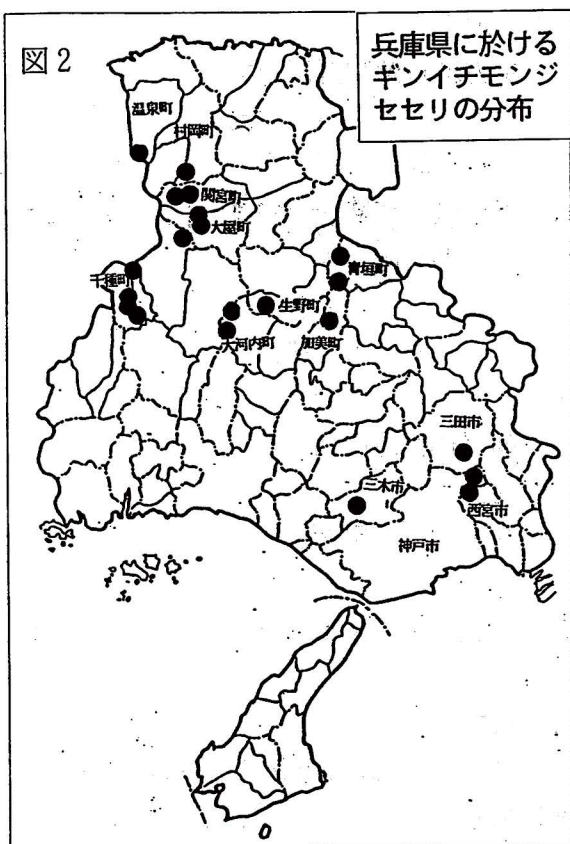
(1) 分布

本種の食草は広く分布しているが、産地は県下でも極限され、県南東部（神戸市北区と三田市付近）、中部（大河内町、生野町、加美町、青垣町付近）、北西部（氷ノ山、三室山付近一帯）の3地域に限られている。

神戸市北区道場町は多産地で、1980～90年代も多くの子が確認されているが一方では最多産地であったJR道場駅東の武庫川河川沿いの草地が、土地の改変で1992～93年と確認出来なかったそうで、確実に固体数を減じているようである。杉ヶ沢高原や氷ノ山山麓の地域ではまだ少なからず見られるようである。

県下南東部の生息地は垂直分布は低く、20m前後であるが、その他の生息地は標高が上がり、400 m～800 mが垂直分布の中心となり、扇ノ山など1,000 mを越える所もある。

今後は但馬北部、丹波、播磨地域からの記録が待たれる。



(2) 採集記錄

阪神・北摂地区

神戸市北区道場町	10 ♂ 5 ♀	7. V.1986	高橋邦明
西宮市山口町下山口	1 ♀	10. V.1961	尾崎 勇 (6)
三田市梅の木	1 ♂ 1 ♀	13. V.1977	広畑政巳 (6)

東播磨地区

三木市		1938	延原 肇 (7)
三国岳			山口福男 (11)
多可郡加美町市原	10exs(目撃)	19.VI.1987	佐藤邦夫

中播磨地区

神崎郡大河内町砥峰	1 ♂	2. VII. 1975	石井為久 (6)
“ “ 峰山	3 ♂ 1 ♀	26. VI. 1966	米村和繁
“ “ 長曽	1 ♀	2. VII. 1975	石井為久 (6)

西播磨地区

宍粟郡波賀町道谷	多産	(30)
〃 千種町千種		(30)
〃 〃 三室高原	3 ♂	10. VII. 1973 尾崎 勇 (6)
〃 〃 鷹巣	1 ♂ 2 ♀	16. V. 1982 広畑政巳
〃 〃 河呂	1 ♀	25. V. 1958 山本広一 (33)

北但馬地区

美方郡村岡町瀬川山林道	5exs	11. VI. 1989 徳岡正巳
〃 〃 ハチ北高原		相坂耕作
〃 温泉町扇ノ山	6exs	28. VI. 1991 永幡嘉之 (31)

南但馬地区

養父郡大屋町中間		(9)
〃 〃 杉ヶ沢	1 ♂	26. VI. 1977 広畑政巳
〃 関宮町鉢伏山	1 ♀	29. VI. 1963 小崎茂樹 (4)
〃 〃 梨ヶ山	3 ♂ 1 ♀	26. V. 1964 木下賢司 (4)
朝来郡生野町栃原	1 ♂	6. VI. 1974 尾崎 勇 (6)

丹波地区

氷上郡青垣町栗鹿山		24. VI. 1953 越知研一郎(8)
-----------	--	-----------------------

3 ホシチャバネセセリ

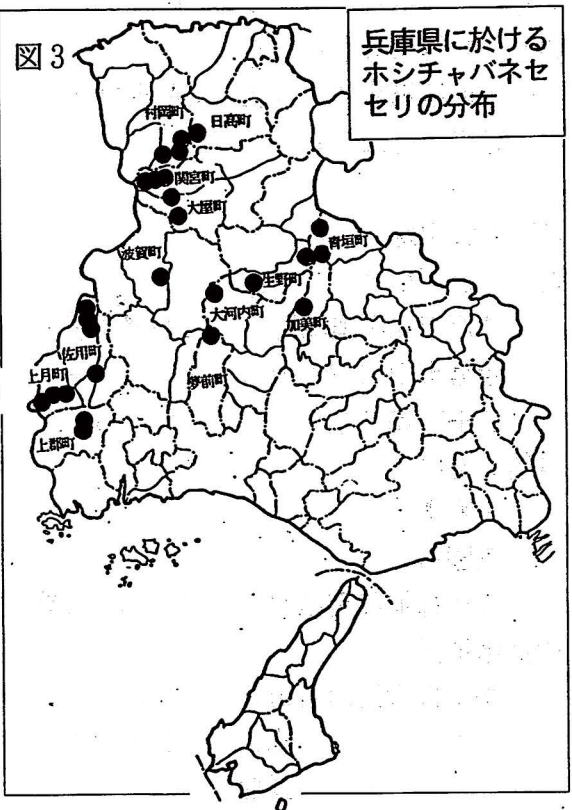
(1) 分布

近畿地方では本県だけに分布し、中部地方まで大きな空白地帯となっている。

県下に於ける分布の東限は青垣町でそれより西の地域に産地が散見できる。

イネ科の雑草が生える明るい草地が主な生息地となる関係で近年は本種の生息地も狭まってきているように思われる。

例記した採集記録の他に、関宮町鉢伏山、日高町神鍋山、千種町三室山山麓、和田山町藤和、生野町黒川、生野峠、南光町下徳久、瑠璃寺などでの採集記録があるように聞くが詳細がわか



らないため採集記録としては上げていない。

上郡町や上月町では標高が 100m の低地にも生息しているが、垂直分布の中心は 400m ～ 600m の草地に多く見られるウスイロヒョウモンモドキ、コキマダラセセリと同じような分布のパターンで産地が一致する所も多い。

(2) 採集記録

東播磨地区

三国岳

多可郡加美町千ヶ峰 2 ♂

中播磨地区

飾磨郡夢前町雪彦山 1 ♂

神崎郡大河内町砥峰 3 ♂

西播磨地区

宍粟郡波賀町水谷東山高原

赤穂郡上郡町大杉谷 1 ♂

〃 〃 野桑

佐用郡佐用町真盛 1 ♂

〃 〃 海内 2 ♂

〃 〃 若州 1 ♂ 3 ♀

〃 〃 奥海

〃 上月町久崎 1 exs

〃 〃 大日山 1 exs

〃 〃 上秋里 1 ♂

〃 南光町東徳久城山田倉谷

北但馬地区

城崎郡日高町金山 2 ♂

美方郡村岡町黒田 1 ♂

〃 〃 耀山 4 ♂

〃 〃 瀬川山 1 ♂

南但馬地区

養父郡大屋町若杉 1 ♂

〃 〃 杉ヶ沢 1 ♂

〃 関宮町梨ヶ山 1 ♀

〃 〃 葛畑

〃 〃 別宮 1 ♂

〃 〃 大久保

山口福男 (11)

16. VII. 1961 猪股涼一 (12)

5. IX. 1960 中谷貴寿 (15)

26. VII. 1981 山本正勝

(29)

3. VII. 1966 木下直樹 (14)

(6)

28. VI. 1970 木村三郎

17. VI. 1972 米村和繁

19. VI. 1977 相坂耕作 ()

(30)

下旬. VI. 1942 山本広一 (5)

24. VI. 1950 山本広一 (13)

14. VI. 1980 西 隆広

春井博文

8. VII. 1978 谷角素彦

19. VII. 1992 永幡嘉之

14. VII. 1978 猪股涼一 (12)

21. VII. 1989 徳岡正巳

30. VII. 1956 中尾 淳 (5)

24. VII. 1977 広畑政巳

25. VII. 1986 永幡嘉之

小野克巳

8. VII. 1984 小野克巳

相坂耕作

朝来郡生野町栃原	1 ♂	1. VII. 1973	尾崎 勇
" " 大外	2 ♂ 1 ♀	22. VII. 1962	小佐々茂 (16)

丹波地区

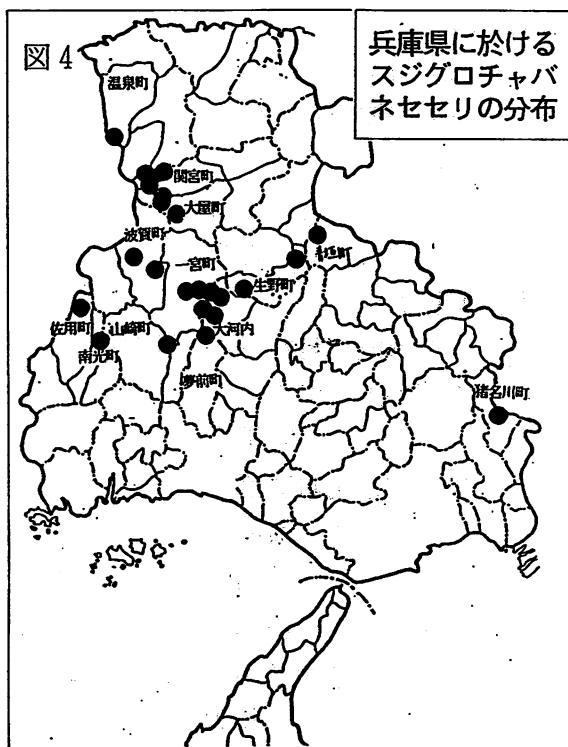
氷上郡青垣町粟鹿山	(11)
" " 鳥峠	(8)

4 スジグロチャバネセセリ

(1) 分布

県下の分布は中西部の中国山地沿いに点在しており、近畿地方では滋賀県まで分布の空白地帯がある。1973年になって東部の猪名川町三草山からの報告があるが、その近辺からの採集記録はその後聞いていない。

南光町上三河、一宮町福中など標高200 m～300 mの産地もあるが、その大半は400 m～600 mである。次種ヘリグロチャバネセセリと生野町栃原、大河内町砥峰、峰山、波賀町東山高原夢前町雪彦山、温泉町扇ノ山、関宮町氷ノ山、大屋町天滝などの混棲地もある。



(2) 採集記録

阪神・北摂地区

川辺郡猪名川町三草山	22. VI. 1973	勝屋 潤 (19)
------------	--------------	-----------

中播磨地区

飾磨郡夢前町雪彦山	(15)
-----------	------

神崎郡大河内町砥峰	1 ♂	2. VII. 1975	石井為久
" " 峰山	1 ♂	26. VI. 1966	米村和繁
" " 上小田	1 ♂	14. VII. 1985	墨谷 健 (18)
" " 川上	1 ♂	22. VII. 1984	山本正勝

西播磨地区

宍粟郡山崎町母栖		尾崎 勇 (29)
" 一宮町福中	2 ♂	22. VII. 1983
" " 福知		山本正勝
		高嶋 明

犬粟郡波賀町赤西溪谷 7♂ 3♀
 " " 水谷東山高原 1♂
 佐用郡佐用町奥海
 " 南光町上三河 3♂ 2♀

18. VII. 1982 徳岡正巳
 16. VII. 1978 広畑政巳
 高島 昭
 3. VII. 1991 山本正勝

北但馬地区

美方郡温泉町扇ノ山山頂 1♂

24. VIII. 1975 木下賢司 (4)

南但馬地区

養父郡大屋町若杉

(5)

" " 天滝 1♂

5. VII. 1964 木下賢司 (4)

" " 杉ヶ沢 2♂

21. VII. 1976 石井為久

" 関宮町鉢伏山 1♂

4. VIII. 1974 徳岡正巳

" " 大久保 1♂

26. VII. 1986 松本正孝

" " 福定 1♂

6. VIII. 1987 永畑嘉之 (32)

" " 氷ノ山東尾根山麓 2♂

9. VIII. 1967 宮武頼夫 (17)

" " 丹戸 1♂

24. VII. 1986 松本正孝 (32)

" " 出会 2♂

8. VII. 1976 西 隆広

朝来郡生野町栃原 1♂

26. VIII. 1954 吉阪道雄 (17)

" " 黒川

山口福男 (11)

丹波地区

水上郡青垣町栗鹿山 1ex

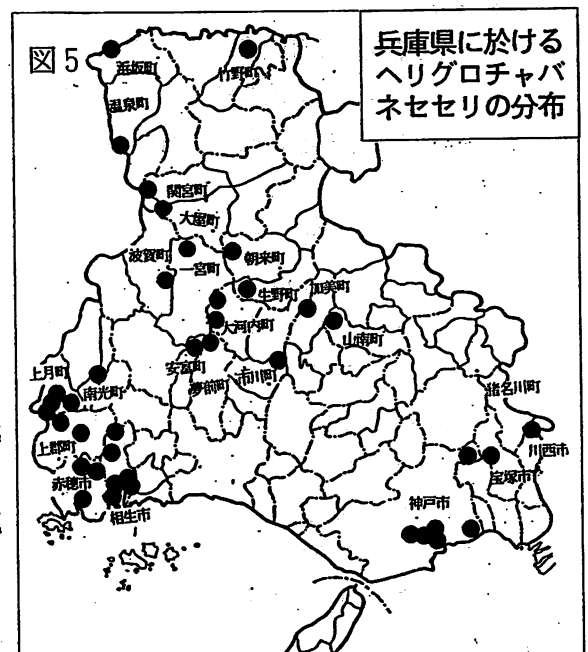
24. VII. 1952 竹内利海 (8)

5 ヘリグロチャバネセセリ

(1) 分布

前種と違って県下の南西部、南東部の低地にも産地が多く、北部の海岸近くにまで分布している。また各産地とも固体数は比較的多い。

標高が100 m前後の産地が圧倒的に多く、40数産地の内20もある。ただ低地だけに生息するのではなく、300 m ~ 500 mの産地も多く、1,000 mの山地でも記録がある。



(2) 採集記録

阪神・北摂地区

神戸市東灘区住吉			(7)
“ 灘区摩耶山桜谷		1938	増田 寛(7)
“ 中央区布引			(7)
“ “ 再度山			(7)
“ “ 森林植物園	1♂	10. VII. 1988	山本正勝()
“ 北区山ノ街			(7)
“ “ 道場町	1♂ 2♀	7. VII. 1968	奥田剛士(25)
宝塚市武田尾			(7)
“ 西谷			(7)
川西市出会	1♂	26. VI. 1958	田中 蕃(24)
“ 東谷			(7)
川辺郡猪名川町大路次溪谷	5♂	26. VI. 1958	田中 蕃(24)

東播磨地区

多可郡加美町千ヶ峰	1♂	4. VII. 1959	岡本 清(12)
-----------	----	--------------	----------

中播磨地区

飾磨郡夢前町雪彦山			(15)
神崎郡市川町笠形山			(7)
“ 大河内町砥峰	1♂	20. VII. 1975	石井為久
“ “ 町峰山	1♂	23. VII. 1962	岩村 巖

西播磨地区

宍粟郡安富町関	1♂	8. VII. 1978	広畑政巳
“ 一宮町志倉	2幼虫	VI. 1978	若林守男(26)
“ 波賀町水谷東山高原	2♂	16. VII. 1978	広畑政巳
相生市三濃山	1♂	19. VII. 1981	苦木隆幸
“ 佐方	1♂	2. VII. 1972	松村邦正
“ 大谷町	3♂	25. VI. 1966	米村和繁
“ 矢野町小河	3♂	3. VII. 1966	米村和繁
“ 古池	1♂	15. VI. 1973	佐々木勲
赤穂市春日	1♂	8. VII. 1979	広畑政巳
“ 周世	1♂	8. VII. 1979	広畑政巳
“ 加里屋	1♂ 1♀	1. VII. 1972	松村邦正
“ 富原	1♂	16. VI. 1973	松村邦正
赤穂郡上郡町黒石	1♂	29. VI. 1974	佐々木勲
“ “ 柏野	1♀	26. VI. 1988	西 隆広

佐用郡上月町久崎 2♂
 " " 上秋里 4♂
 " " 下秋里 1♂
 " " 岡坂 1♂
 " 南光町徳久 2♂

30. VI. 1973 尾崎 勇
 24. VI. 1984 森下泰治
 24. VI. 1979 広畑政巳
 24. VI. 1979 広畑政巳
 26. VI. 1973 尾崎 勇

北但馬地区

城崎郡城崎町

" 竹野町轟 1ex
 美方郡浜坂町城山 7♂
 " 温泉町扇ノ山 1♀
 " " 霧ヶ滝 6♂

3. VII. 1963 小崎茂樹(4)
 22. VI. 1991 永畑嘉之(32)
 1. VIII. 1955 中谷貴寿(2)
 20. VII. 1992 永畑嘉之(32)

南但馬地区

養父郡大屋町天滝 1♂
 " 関宮町氷ノ山
 朝来郡朝来町神子畑 1♀
 " 生野町栃原 2♂

5. VII. 1964 木下賢司(4)
 (9)(20)
 6. VIII. 1955 山本広一(5)
 1. VII. 1973 尾崎 勇

丹波地区

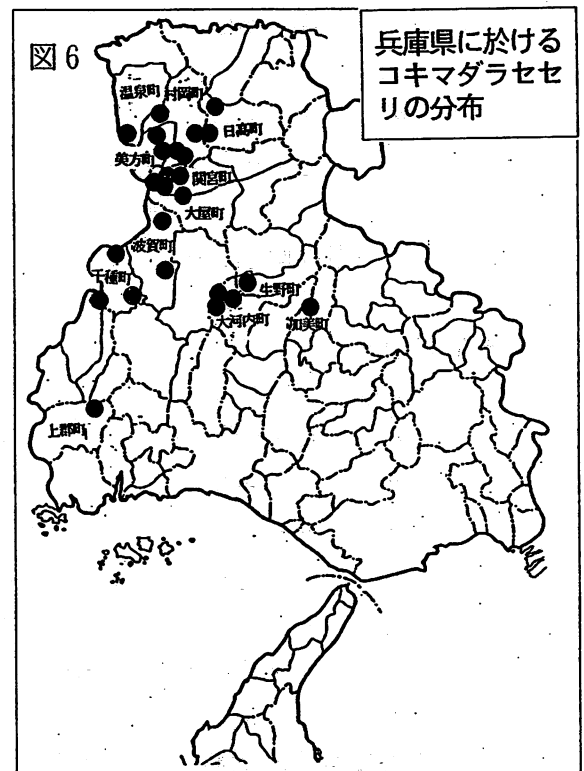
多紀郡山南町五ヶ野 2♂

5. VII. 1990 山下剛史

6 コキマダラセセリ

(1) 分布

中国山脈の東端で分布が途切れ、近畿地方では滋賀県伊吹山周辺まで分布の空白地帯がある。上郡町富満の記録が県下では南限で、標高も300 mと低い、それ以外の生息地は500m～800mの山地の草原で多く見られる。



(2) 採集記録

東播磨地区

多可郡加美町千ヶ峰 1♂ 1♀ 16. VII. 1961 猪股涼一(12)

中播磨地区

神崎郡大河内町砥峰 1♀ 1. VII. 1984 広畑政巳

" " 峰山 2♂ 2♀ 11. VI. 1981 西 隆広

" " 川上 1♂ 1♀ 25. VII. 1981 西 隆広

西播磨地区

宍粟郡波賀町水谷東山高原 1♂ 15. VII. 1978 石井為久

" " 戸倉 1♂ 4. VII. 1982 山本正勝

" 千種町鷹巣 1♂ 1. VI. 1985 近藤伸一

" " 日名倉山 1♂ 14. VII. 1968 尾崎 勇(6)

" " 大通峠 (30)

赤穂郡上郡町富満 2♂ 2♀ 2. VI. 1963 岩村 巖

北但馬地区

城崎郡日高町金山峠 1♀ 15. VII. 1979 木下賢司(4)

" " 蘇武岳 1♂ 30. VII. 1981 福井丈嗣(4)

" " 神鍋山 1♂ 5. VII. 1987 徳岡正巳

美方郡村岡町耀山 2♂ 8. VII. 1978 木下賢司(4)

" " 瀬川山 1♂ 17. VII. 1988 徳岡正巳

" " 大笹 1♀ 26. VII. 1981 広畑政巳(23)

" 美方町小代スキー場 20. VI. 1981 加野 正(21)

" " 美方高原 1♂ 9. VII. 1978 広畑政巳(22)

" 温泉町扇ノ山 (9)

" " 美原 1ex 11. VII. 1982 黒井和之(4)

南但馬地区

養父郡大屋町杉ヶ沢 1♂ 1♀ 24. VII. 1977 広畑政巳

" 関宮町鉢伏山 6♂ 2♀ 21. VII. 1989 徳岡正巳

" " 葛畑 2♀ 15. VII. 1980 小崎茂樹(4)

" " 別宮 1♀ 15. VII. 1980 木下賢司(4)

" " 福定 1♂ 1♀ 26. VII. 1986 永畑嘉之

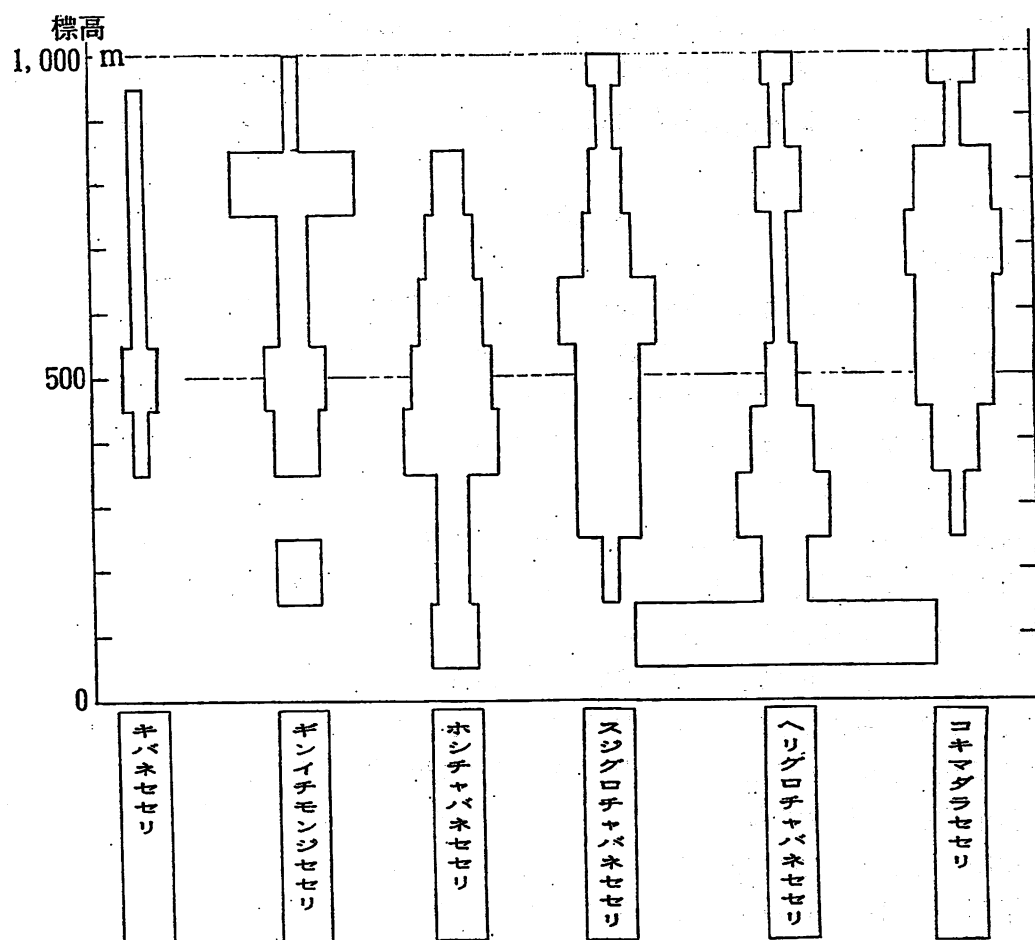
" " 氷ノ山東尾根山 2♀ 25. VII. 1986 永畑嘉之

氷ノ山山麓スキー場 1♀ 25. VII. 1986 永畑嘉之

" " 出合 2♂ 8. VII. 1989 西 隆広

朝来郡生野町栃原 6♂ 1♀ 9. VII. 1975 岩村 巖

Ⅱ セセリチョウ科6種の垂直分布



参考文献

- (1) 谷角素彦・足立義弘(1979) 金山・蘇武山系の蝶類 IRATSUME(3): 8 ~18
- (2) 山本広一・吉阪道雄(1965) 兵庫県産蝶類目録(4) 兵庫生物 5(1):52~55
- (3) 福原孝好(1977) 兵庫県下のキバネセセリの採集記録 MDK NEWS 27(77):10
- (4) 木下賢司・前平照雄・福井丈嗣(1986) 但馬地域の蝶類目録 IRATSUME(10):55 ~95
- (5) 山本広一・吉阪道雄(1958) 兵庫県産蝶類目録(1) 兵庫生物 3(4):228 ~236
- (6) 播磨蝶友会(1977) 兵庫県に於ける蝶類の分布と採集記録(その3)
ひまわり 3 :1 ~19

- (7) 山本広一(1971)兵庫県の蝶相 月刊むし 3 : 2 ~ 10
- (8) 丹波昆虫研究会(1957)丹波の蝶 丹波昆虫(3): 1~15
- (9) 高橋 匡(1979)但馬地方の昆虫目録(予報第 1報) きりぎりし(3): 40~58
- (10) 西村公夫(1967)播磨高原の蝶類について 兵庫生物 5(3/4): 228 ~ 229
- (11) 山口福男(1985)朝来郡山県立自然公園及び周辺地域の自然環境調査報告
兵庫県新観光課 神戸
- (12) 岡本 清・猪股涼一(1962)兵庫県多加西脇地方の昆虫(2)
兵庫生物 4(3/4): 177
- (13) 山本広一(1953)佐用郡久崎の蝶(2) 兵庫生物 2(3): 153 ~ 157
- (14) 岩村 巖(1968)西播の蝶分布資料(5) 兵庫生物 5(5): 387
- (15) 岩村 巖・中谷貴寿(1962)西播の蝶分布資料(2) 兵庫生物 4(3/4): 174
- (16) 小佐々茂他(1962)兵庫県下の ホシチャバネセリ・スジチャバネセリ の新産地
MDK NEWS 15(1): 19
- (17) 日浦 勇(1970)日本列島の蝶 大阪市立自然科学博物館収蔵資料目録第 2集
- (18) 京都大学蝶類研究会(1987)日本産蝶類 239種の記録(上) SPINDA(2): 1 ~ 40
- (19) 仲田元亮(1982)能勢の昆虫 自刊
- (20) 山本広一(1955)但馬氷ノ山夏の蝶 兵庫生物 3(1/2): 22~26
- (21) 島田真輔(1982)美方町の蝶 IRATSUME(6): 25 ~ 29
- (22) 広畑政巳(1979)美方高原 7月上旬の蝶 IRATSUME(3): 38 ~ 39
- (23) 広畑政巳(1981)村岡町大笹にてコマダセリを採集 てんとうむし(7): 29
- (24) 田中 蕃(1980)森の蝶ゼフィルス築地書館 東京
- (25) 堀田 久(1968)神戸市道場のヘリグロチャバネセリ MDK NEWS 20(3): 18
- (26) 若林守男(1978)ミヤコザサを食べたヘリグロチャバネセリ の幼虫 MDK NEWS 28(78): 6
- (27) 黒井和之(1988)浜坂町城山の蝶類 IRATSUME(12): 11~13
- (28) 三木 進(1979)六甲山系(西部)の蝶 きりぎりし 7(1): 2 ~ 7
- (29) 尾崎 勇(1984)兵庫県の蝶(2) 揖保川水系の蝶相 ひろび(7): 16~22
- (30) 尾崎 勇(1980)兵庫県の蝶(1) 千種川水系の蝶相 ひろび(5): 24~30
- (31) 永畑嘉之(1992)夏の訪れー兵庫の尾根・奥但馬にて 因幡のむし
(27): 50~53
- (32) 永畑嘉之(1993)但馬の蝶10題 IRATSUME(17): 1 ~ 7
- (33) 山本広一(1965)1964年夏の理科作品展に拾った2 ~ 3 の蝶とその分布について 兵庫生物 5(1): 47~48
- (34) 蝶研サロン編集部(1992)1992年蝶類採集情報 蝶研サロン(62): 24
- (35) 紅谷進二(1971)兵庫県植物目録 六月社 大阪

郷土の昆虫凧について

相坂耕作

はじめに

凧は紀元前500年頃に中国で生れたといわれ、いつしか日本へ入ったものとされている。その日本の凧はリアルな中国の凧に較べ、世界に例をみないほど形態に工夫を凝らして作ってある。

しかしながら日本の大切な行事にも深くかかわり、伝統の中に育まれてきた各地の優れた凧も細々と残存しているにすぎず、完全に滅び去ったものも数多い。事実、筆者の郷土姫路市でも昔は蟬の形をしたセミ凧があったという（日本玩具博物館・井上重義館長談）。筆者は昆虫民俗上、多くの昆虫方言を調査したことがあるが、その地方の昆虫方言も親から子へ子から孫へと言い伝えられてきた。しかし、ともすれば忘れられ魔語になる運命にある。

この昆虫凧にしても全く同じことで、その土地に遠い昔から親しまれてきた凧と、その土地の人ですらその存在について何も知らないことが多い。筆者の興味ある分野、昆虫を題材とした和凧は数も少ないが、今も各地で見られる郷土の昆虫凧を紹介してみよう。

《テウウ凧》

中国にはリアルでまたカラフルな蝶凧が極めて種類、数とも多いが日本には極端に少ない。つまり、日本の古くからの民間伝承では、蝶は死者の靈魂が乗り移ったものと考えられており、吉祥柄（おめでたい模様）としては用いられることはなかったようだ。これらが凧の流行時に影響があったのではないかとおもう。

愛知県安城市桜井

有名な柿の木金助物語にちなむ。名古屋城の金のしゃちほこを大凧に乗りうろこを3枚はがして盗んだため、役人につかまり、それ以後は名古屋近辺には大凧の製造は絶対禁止のお触れがでたという。そのため凝った小さな虫凧が多くみられる。岩瀬仙松氏、岩瀬良吉氏が現在も制作中。

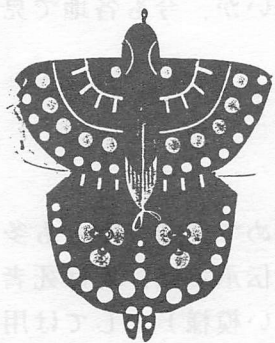
山口県下関市安岡

蝶凧の歴史については伝承者、安本白州氏によると戦後70才位のおじいさんが
 亀山八幡宮（下関市）の凧揚げ大会に於いて揚げていたという。大変なデザイン
 で（模様がなんとなく戦国時代の鎧をほうふつさせる）ルーツを調べたそうであ
 る。揚げていたおじいさんは、大分県豊後高田市出身という。しかしルーツは四
 国方面にあるのではという感触を得、安本白州氏はそうおもわれていたという。
 しかし凧に詳しい愛媛大学の村上教授によると、そんな話しは聞いたことがない
 ということである。いまだ下関安岡の蝶凧のルーツはわからない。安本白州氏、
 豊住国義氏が制作される。

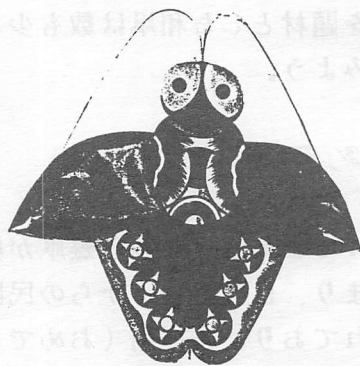
香川県高松市

お土産用で組立式の蝶凧。櫛木下商店で制作されていたが現在は廃絶している
 ようである。

郷土のチョウ凧



山口県下関市安岡



愛知県安城市桜井



香川県高松市

《セミ》

昆虫𦉰の中で、一番多くデザイン化されているのがセミ𦉰である。

真夏の代名詞ともなるセミを、お正月や節句に揚げるのはなぜだろうか。

𦉰の専門書をひもとけば、セミは次々と生まれ変わるため再生を意味し、縁起が良く、長生きにあやかうとセミの姿を揚げたとある。さらにもっと詳しく調べたものには、故新坂和男氏が「𦉰の話」に記されている。

すなわち「昆虫の中でセミが選ばれたのは、清水完治「満玩吉祥譜」（「鯛車」七号）によると、セミは「高木に止まるを以て陽に近きものとなし、また脱殻するところから未来に復活するの意を表す」とある。すなわち高木に止まることにより、陽つまり太陽に近づくことにより縁起がよいとか、セミが殻から脱け出る蟬脱の意味は、いわば古い習慣や形式を捨てて全く新しくなるということにより復活を意味し縁起がよいのであろう。

また新坂氏によると「中国の漢時代にあつては、地中に長くあってから地上に出てくるその生命力から、セミが再生を可能にすると考えていたらしく、死者の口中へセミをかたどった玉を副葬品として入れたといわれる。」

「セミ𦉰の形はこの玉のセミの形とよく似ているので、おそらくともに‘未来に復活する’ことを意味し、吉祥にあやかっただけのものであろう。」とある。

セミの縁起のよさにもまだ意味がありそうなので辞典類で調べると、いろいろある。つまり

せんけん

蟬蛸（蟬蛸） 上品で美しい

せんぜい

蟬蛻 セミのぬけ殻。つまり世俗をぬけ出ること

せんじやう

蟬噪 セミがやかましく鳴く。つまり人々が、がやがやとやかましく騒ぐ様。

これは、𦉰を揚げることにより賑やかで華やかな様子に通じる。

などが考えられ、セミ𦉰が一番縁起のよい昆虫𦉰にふさわしかったのではなかろうか。

またセミ𦉰の稿を終わろうとしたら、セミについて次のことが分かった。セミは幼虫及び成虫になっても木の汁を吸うだけで何も食さない。つまり上品な昆虫であるのも一つの縁起の事実であらう。

大分県杵築市

温泉で有名な別府から約30分313号線を北上したところに大分県杵築市がある。武家屋敷のつづく海辺のまちで、小京都とも称され、国東半島の入口にあたる。

この杵築には、長崎系の角立四角形の次郎次胤という、制作者福田次郎次氏の名をとったセミ胤があった。しかし次郎次さんの死亡とともに廃絶となってしまった。

福岡県戸畑

大正年間から作られている一文胤（子供用の安物胤）で、創始者の竹内孫次氏の名を冠して孫次胤という。竹内孫次氏が昭和45年、85才で没した後、跡継ぎのないまま廃絶したかにみえたが、昭和45年以後は孫の竹内義博氏及び夫人の日出子氏が受け継がれている。

戸畑港に入港する船の船員たちに賞揚されたものらしく、セミを童画風に描いたその作品は面白く、ここまで発展してきたもの。戸畑駅裏の民芸店・カイトハウスで制作中。

静岡県大須賀

遠州の大須賀は多種類の変形胤があることで知られている。中でもこのセミ胤は人気のある昆虫胤のひとつで、ユニークな形態である。九州などのセミ胤は目が大きく突き出しているが、この胤では本体の中にすべてを図案化して入れ込んでいる特徴がみられる。心棒は丸竹、弓うなりと縄尾が付く。

胤絵師・柳瀬松太郎氏亡きあと、子息・柳瀬重三郎氏および地元の一二三（ひふみ）会が受けついでいる。しかし今も、全国から注文が殺到するため制作はおそくなる。

香川県三豊郡詫間

ともかくカラフルな蟬胤である。また美しく目立つ。詫間駅の近くに住まれる磯崎なつえさんは、三代目の女胤師である。最も得意なセミ胤は、夏によくセミが鳴き子供の気持ちになり、喜ばしてやろうと思って25年余りに創作したという。紙は宇陀紙を使い、目玉の丸い部分は竹の皮を使う。胴体部分は身と皮のつ

いた竹を使って制作されている。割合にセミ凧は形状が複雑でけっこう手間がかかるといっておられた。

たまたま握った筆で自由自在に彩色されるためか、このセミ凧にはひとつとして同じものがないのも魅力のひとつである。

大分県高田市

豊後高田のセミ凧は大きな目に特徴がある。形態が大変面白く、配色が今ひとつというところか。しかし、これがその土地で生れ育まれた民芸凧なのかもしれない。制作者・藤原三郎氏亡きあと子息・靖彦氏が受けつがれている。日本の凧大全集によれば、九州のセミ凧のデザインはマチス、ピカソにも負けない素晴らしさと賞賛されている。

山口県下関市安岡

詳しいことは分からないが、フグ凧を創作された有名な凧師・安本白州氏によれば、当年82才の安本白州氏の子供の頃から伝えられてきた安岡のセミ凧であるとの事である。その形態からはまさしく九州に伝わる大きな目の特徴がある。

愛知県名古屋市

古流名古屋凧として知られる。ある資料によると寛永年間より作られ、大人の遊びとして発達したものとされる。また江戸時代後期に作られたとの説もあり本当のことはわからない。当時武家の隠居などが暇にあかしていろいろ工夫、制作されたもので、大変に精巧かつ作り方が凝ったものとなっている。竹にしても季節に関係なく揚げたため、冬期、伊吹おろしの強風に耐えるため普通の竹では狂いが生ずるため、わざわざ煤竹を使用していた。新しい竹で作ると一度揚げただけで、風のため骨がたわみ元に戻らないからという。

天保・明治の文献を手探りに、佐藤昌明、野田実正氏などが復活制作されている。

その他神奈川県秦野市、大阪市西成区（廃絶）、沖縄県那覇市、東京都、静岡県三川（廃絶）などがある。

郷土のセミ凧



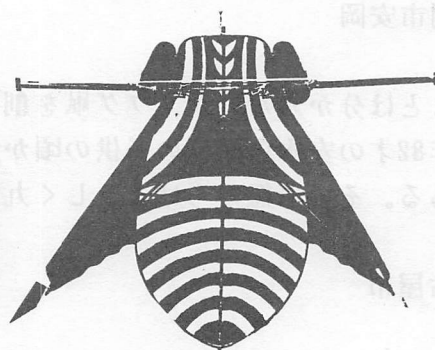
大分県杵築市



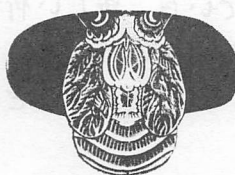
香川県高松市



静岡県大須賀



愛知県名古屋



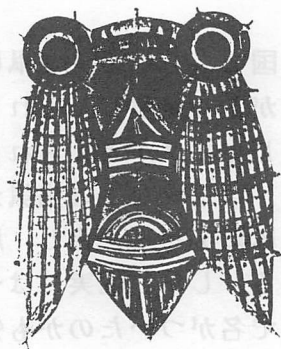
東京都



東京都



山口県下関

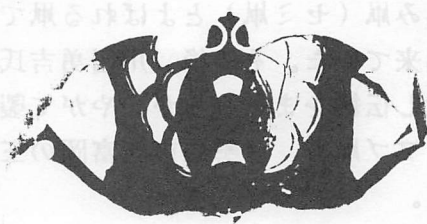


香川県詫間



市龍饒野県川奈
沖縄県那覇市

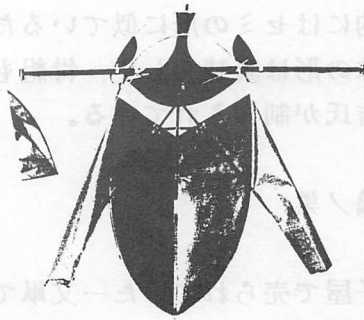
↑ 郷土のセミ凧 ↓ 郷土のアブ凧



神奈川県伊勢原市(4代)



愛知県名古屋



愛知県名古屋

《 アブ 凧 》

リアルな凧でしられる中国でも、このアブ凧はみかけない。昔は家畜を飼うところが多く、そのためアブが多く発生し、それをモデルにしたものとおもわれる。

いろいろな病気の媒体としてアブが考えられたためか、神奈川県伊勢原市では子供が、はしか、ほうそう、百日咳などの病気が流行すると軽く病が上がるようにとの願いを込め、アブを凧にデザイン化し、魔よけの色とされる赤で塗って空に掲げたものといわれている。しかし現実にはセミ凧との区別がつきにくいものも多く出来上がった凧の形で名がついたのかも知れない。

神奈川県伊勢原市

アブをモデルに明治30年代、伊勢原市東大竹大宝寺住職（当時）の加藤明粹氏によって制作された。その後、アブ凧作りの技術は加藤明粹氏から東大竹自徳院住職（当時）の堀井天祐氏および川口定吉氏へと伝えられた。川口定吉氏の子息・勇吉氏の時に最盛期を迎え、神奈川県の子供たちに深く愛用された。

当時のアブ凧は、一般にせんみ凧（セミ凧）とよばれる凧で、現在のものより横に細長く全体的にスリムに出来ていた。その後、川口勇吉氏の妹で厚木市七沢の青木きく氏がこの技術を継承し伝統をまもったが、やがて製作が中止され廃絶した。10年近く途ざえていたアブ凧も、伊勢原市西富岡の三川由利五郎氏により復元され現在にいたっている。

愛知県安城市桜井

一般的にはセミの形に似ているためセミ凧ともよばれる。その優れたデザインと半立体の形は素晴らしく、骨組も手が込んでいる。セミ凧と同じく岩瀬仙松氏、岩瀬良吉氏が制作されている。

埼玉県鴻ノ巣

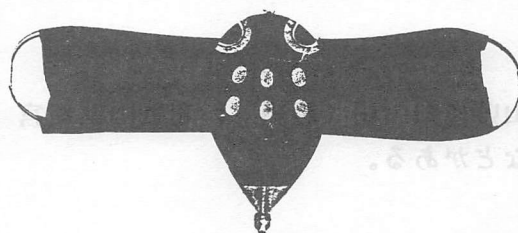
駄菓子屋で売られていた一文凧で昭和の初期に廃絶してしまった。木版に手彩でより安価にするため、極度に描彩や形態を単純化してある。現在この地方での好事家により復元されているようだ。

埼玉県岩槻市

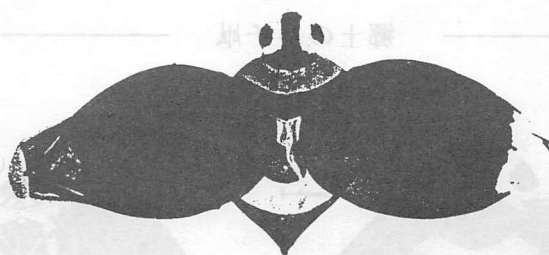
鴻ノ巣同様、駄菓子屋で売られていた一文罽。単純な図柄で、木版手彩色による描彩である。昭和初期に廃絶してしまったが、最近、復元されつつある。

以上のほか愛知県名古屋市の古流罽、岐阜県各務原市などがある。

郷土のアブ罽



埼玉県岩槻市



神奈川県伊勢原市 (3代目)



埼玉県鴻ノ巣

中国にも多くのハチノズがみられるが、日本にも少しは郷土ノズとしてみられる。ハチは古代から人間と深い係わりがあったからもっとノズとして利用されてもよかったのではないだろうか。

愛知県名古屋市

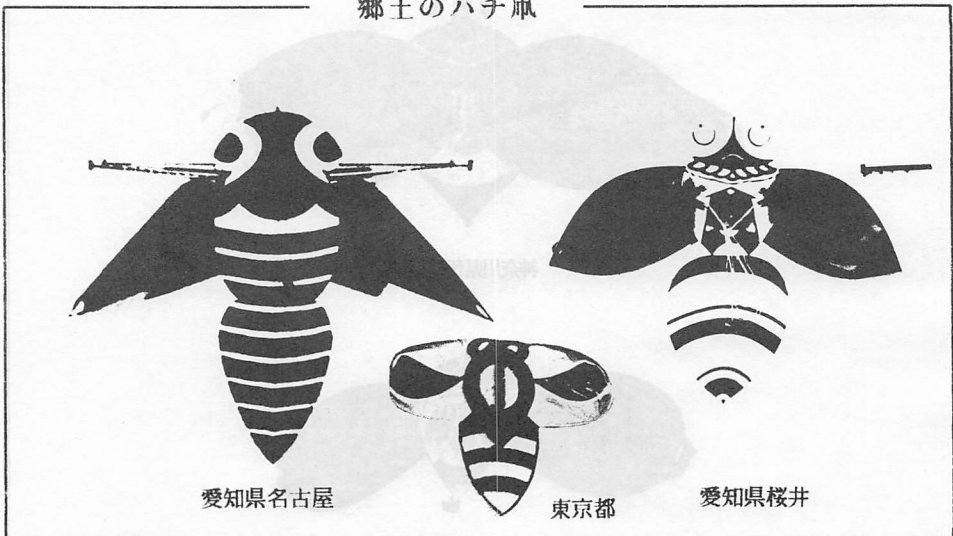
セミノズとおなじく天保・明治の文献を手さぐりに佐藤昌明氏たち名古屋のノズの会員が古流ノズを復活させている。やはり狂いの生じない煤竹を使用している。

愛知県安城市桜井

形態が凝っており、素晴らしい昆虫ノズである。岩瀬仙松氏、岩瀬良吉氏が制作している。

以上のほか和歌山県伊勢山田（廃絶）、和歌山県新宮（廃絶）、東京都の印刷ノズ、千葉県川崎市などがある。

郷土のハチノズ



《 アリ 罎 》

詳しくは分からないが埼玉県秦野市に昔からあったとの事である。作者に復元を依頼中。

《 ムカデ 罎 》

ムカデ（百足）は昆虫ではないが、いわゆる昔の虫として紹介しておこう。日本に残るムカデ罎は中国大陆にあるムカデ罎の模倣であろうといわれている。

しかし、ある文献によると幕末明治の頃、神奈川県小田原の城下町に大久保家伝来のムカデ罎があったといわれており、純粹の和罎であるかも知れない。

そもそもムカデは毘沙門天のお使いだといい、各地の毘沙門様をまつっているところにはムカデの絵馬が多くみられる。本来気味の悪い虫であるムカデを柔らかく美しく描かれる「百足」は「お足が多い」とかついで、大阪商人がよく絵馬をあげる。つまり商売繁盛、千客万来を願ったものという。ムカデ罎もいわば目出度いときに使う罎かもしれない。

中国のムカデ罎は龍頭ムカデ罎といって一番最初の部分は龍の頭になっている。しかし日本のムカデ罎はまったくなくなっていない。これらのことからムカデ罎は必ずしも中国伝来とは考えられないとおもう。

福岡県柳川市

福岡県柳川市は北原白秋の里であり、ロマンあふれる郷土の罎があったという。郷土罎は明治20年生まれ故山下仁三郎氏により創始されたものであったが、戦前にすべて廃絶した。しかしその後、白秋の系統を踏む趣味家で詩人でもある北島勉氏の手で罎は復活していた。この北島氏も10年余り前、惜しまれながら逝去されたという。しばらく柳川の郷土罎を受けつぐ者はいなかったが、柳川トラベルの代表者・坂田信義氏により最近復活されている。

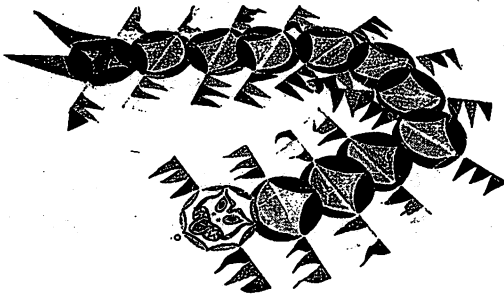
ムカデ罎は、坂田信義氏によると僅か2点だけ柳川市に色あせたものが残っていたそうで、苦勞して復元したという。有名な四国香川県のムカデ罎と大きさ等はあまり変わらないが、色相がより南方的なのとムカデの顔が面白い。口からひげが出ているのと目が立っているユーモラスさは、一度見たら忘れられない。色付けの時に蠟（ろう）を使って書くのも大変珍しい。

香川県高松市

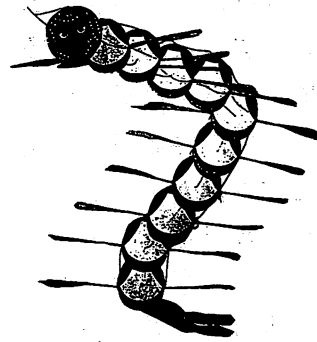
大変有名な立体凧で、ルーツをたどれば中国から渡来したものというのが定説である。木下嘉一、井上鷹雄という名凧師がいたころは、海外にまで輸出していたという。しかし昭和48年のオイルショック以来生産数は落ちていったそうである。ともかくムカデ凧の佳品としての風格を漂わしている。

その他福岡県浮羽郡田主丸町に、しだ凧とよばれるムカデ凧があるが、最近では制作されていない。

郷土のムカデ凧



福岡県柳川市



香川県高松市

おわりに

筆者は全国で昆虫凧を制作されている、いわゆる凧師の方ともおいおい接触を持ち調べてきたが力不足で間違いも多いのではと心が痛む。しかし、ある凧師はながいこと凧を作っているが、そんな分野で凧を調べている人は初めてだ、頑張ってください。私の死に土産に最後の凧を作ってあげよう。しかし歳のためミニ凧で許して……。そんな理由なら昔から保存していた2つのうちの1つを分けてあげよう。といってくれた老いた女凧師など、郷土の昆虫凧の伝統を守ってきた凧師が消えゆくこの実情をみると、凧師の群像や生いたち実情等を調べ、その凧が廃絶し、色あせたり、骨組みもわからなくなっていくうちに調べて記録し、昆虫凧のみならず郷土の凧を収集保存したいものである。なんらかのかたちで、この拙文が役立ってくれば幸いである。尚、この稿は平成2年、姫路市立科学館の特別展「凧の科学－凧はなぜあがるのか－」に執筆したものに修正加筆をしたものである。

サツマシジミ・ヤクシマルリシジミ・ミカドアゲハ 奮戦記 五十嵐喜昭

筆者は昨年から本年にかけ、和歌山県方面にサツマシジミ・ヤクシマルリシジミ・ミカドアゲハを求め採集旅行を実施した。

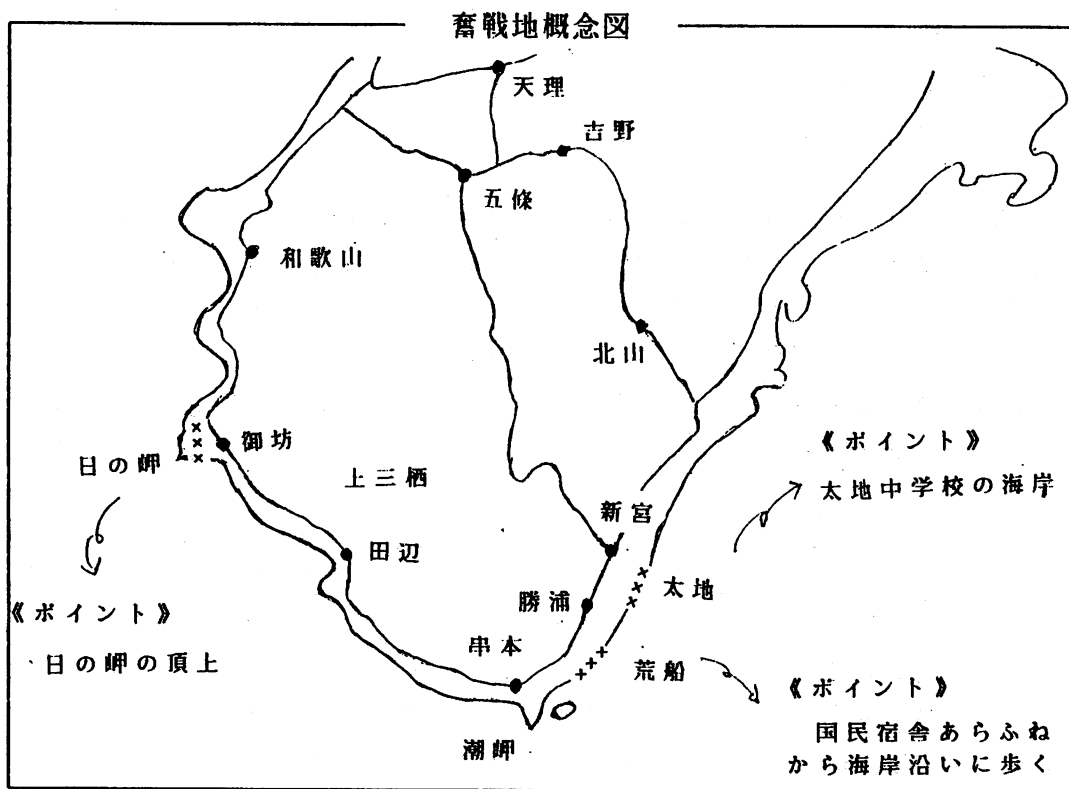
1992.X.25(日) 早朝4時に兵庫県神崎郡福崎町の自宅を出発した愛車が、和歌山県日の岬に到着したのは午前10時30分着であった。ポイントの日の岬の頂上は、おりしも海からの風が強く採集は容易ではない。僅かにサツマシジミ1♀を得たのみで、この地を退散することにした。そして次の訪問地、田辺市上三栖へ着いたのは午後2時30分。主な目的種ではなかったが、クロコノマを3♂3♀採集することができた。満足な結果ではないが、まあこれでもよいだろう。

1992.XI.2(月) 前回と同じく和歌山県に向け出発し、この日は国道168号で山越え、南紀有数の観光ポイント那智滝巡りをし、目的地荒船に着いたのは午前10時頃であった。海岸はさわやかな小春日和であり、ポイントの国民宿舎「あらふね」から海岸沿いに歩く。目的のサツマシジミとヤクシマルリシジミは乱舞とはいかないが、結構飛んでいた。もっぱらチョウを採るのは妻のほうで、筆者は、おお忙しの三角紙入れであった。奮戦した結果は次の通りである。ニコニコ・ニンマリ。

サツマシジミ 15♂17♀ ヤクシマルリシジミ 5♂10♀

1993.V.4(火) 本年の和歌山県行きは鯨の町として有名な太地である。晴れていたのかかわらず、ポイントの太地中学校の海岸にはミカドアゲハの姿は見られなかった。到着時間が午後2時頃だったのと、海からの風が強かったのが原因か?。地元の蝶仲間と雑談したところ、今年は昨年よりミカドアゲハが少ないとか。この日は帰省と行楽で渋滞し、帰り国道169号にもかわらず福崎に着いたのは翌日の午前3時となった。つまり24時間もかかったわけで、おもわぬ日帰りの訓練になってしまった。

以上で和歌山県での奮戦記を終えたいとおもう。最後になったが、この強行なスケジュールの採集に同行してくれた妻敬子に感謝する。



塩田跡人工林の謎

大貝秀雄

赤穂市城南緑地（通称グリーンベルト）は、塩田跡埋立地の臨海工業地域と住居地域を区分する目的で設けられた、幅50～100m全長4 Kmの種々の常緑樹から成る人工林である。このように純粋な人工林における昆虫相の変遷は興味ある研究課題であるが、1976年11月の事業完成の後17年を経過した現在では、この地方の普通の二次林と差程違いのない多種の昆虫が既に定着しているようである。ところが驚くべきことには、赤穂市内では他の産地を全く知らないホシミスジとネアカヤンマが、少なくとも1991年以前からここに生息していたのである。特にネアカヨシヤンマは、毎年少なからぬ未熟成熟個体が確認されているにもかかわらず、幼虫の発生地となり得る池や湿地が緑地内には存在しない。赤穂城跡の堀で発生している可能性もあると見て調べているものの、未だ証拠はつかめず謎にまつまれている。

クロサワヒメコバネ大珍品の名を返上する

花岡 正

クロサワヒメコバネは全国的に大変採集記録が少なく、確実な採集地、採集方法がいまだ無い。いままで年に1～2頭採集記録が報告される位だったが、1993年6月末から7月18日位にかけ400頭余りが採集され、生態もかなり知られてきたので報告する。

場所は兵庫県ではなく京都府舞鶴市与保呂だが、環境は兵庫県宍粟郡波賀町の赤西、音水溪谷によく似ているので今後同地でも大量に採集される可能性があるため詳しく記しておく。

この地では、ミズキ、クマノミズキ、トチ、エノキなどの落葉広葉樹林で、伐採後2～3年位の所に植樹の為に生木が少し残り、地面に土止め用に所どころミズキやクマノミズキ、コナラ、エノキなどの伐採木を山にして横積されている所がポイントになった。本年6月27日に50頭余りが採集され（この日は♂が9割位）7月7日に44♂45♀を採集。この後は♀が多くなっていき7月18日までに上記の頭数に上り、大珍品の座を滑り落ちてしまった。また大阪の斎藤氏が持ち帰ったクマノミズキより2頭を羽脱させてもいる。

活動行動は雨天では1日中、晴天は気温の低い午前中、昼近くまでは、ほとんど動かず、横積にされている材から上向きに伸びているミズキ、クマノミズキ、サルナシ、クリ、コナラなどの枝先にしっかりとつかまっていた。相当強く揺さぶっても枝を離さなく驚く位だ。気温が上昇すると枝先を少し動いたり、飛び廻る個体が出てくるが、サルナシのツルに止まる個体が多く（枝からぶら下がっている根のついていないツルが一番良い）止まると、又ほとんど動かない。1頭が止まっていると2～3秒の間隔を置いて次々に並んで4～5頭上向きに止まる群れも多く見られた。活動は夕方4～5時位まで見られる。花は、ここはクマノミズキしか無く、ほとんど花上での採集はなかった。採集した全員が大声を出し、震える手で採集したエバニアは想像していたよりかなり大きかった。他の種類と採集方法が大きく違ったのは9割以上が、成虫を目で見つけて、手づかみしたり、ネットインしたことである。

カンボウトラカミキリ ケヤキより羽脱

花岡 正

岡山県在住の和田洋介氏は、1992年秋に兵庫県宍粟郡波賀町の音水溪谷にて直径5センチ位のカミキリムシの入っていそうなケヤキの枝を持ち帰ったところ、1993年2月になって成虫が羽脱したとのことである。

キイロアラゲカミキリ

音水溪谷のカラスザンショウより羽脱

花岡 正

全国的に数少ないキイロアラゲカミキリだが、県下では宍粟郡赤西溪谷にて1980年位から数多く得られている。しかし同地以外は採集地として知られていなかった。このたび音水溪谷から1993年4月29日持ち帰った、直径3センチ位のカラスザンショウの枝より3頭羽脱したので報告する。ちなみに羽脱日は次の通り。

4.VII.1993 1♂ 花岡 正

6.VII.1993 1♂ "

20.VII.1993 1♂ "

尚、同じ材よりタイワンメダカミキリも2頭羽脱したことも記しておく。

カエデノヘリグロカミキリの遅い採集記録

花岡 正

通常、春早く発生する同種が、天候不順の今年の発生の遅れからか遅い採集記録があるので報告しておく。

27.VI.1993 1♀ 和田洋介

4.VII.1993 1♀ 花岡 正

共に氷ノ山の奥山林道にて採集されたもので、完品で新鮮に近いような個体であった。

オオヒカゲを波賀町戸倉にて目撃

花岡 正

筆者は、27.VI.1993 午後3時ころに、オオヒカゲを宍粟郡波賀町戸倉にて目撃したので報告しておく。同日は曇り空。国道29号線道路上にて（ドライブイン氷ノ山より山崎より200メートル位）ガードレールの所を飛び越そうかとゆっくり飛んでいる♀を1頭目撃したので報告する。

ジョウザンミドリシジミの追飛を目撃

花岡 正

筆者は、兵庫県養父郡関ノ宮町福定の布引の滝付近にて、ジョウザンミドリシジミの追飛を見かけたので報告しておく。本年7月11日午後3時ころの事である。

7月18日また同地を訪れた。数は随分少なくなっていたが、それでもかなりの個体を目撃した。他のゼフィルスは見掛けなかったが、アイノミドリシジミの発生ポイントに近いのでシーズンには面白く感じた。

市川町で採集したゼフィルス 数種の記録

広畑 政巳

町内に於いては笠形山の採集記録の報告は蝶全般的に見られるが、その他の地域からの報告は極めて少なく、特にゼフィルスについては調査もできていない状況である。

筆者は今年同町内に於いて調査の機会に恵まれ、数ヶ所でオオミドリシジミ、ミドリシジミ、アカシジミ、ウラキンシジミを採集しているで報告する。尚ミドリシジミの♀は8頭採集したが、AB型が1頭、B型が3頭、O型が4頭であった。

《採集記録》

① オオミドリシジミ	1 ♂ 2 ♀	神崎郡市川町下瀬加加茂地	27-VI-1993
"	3 ♂ 2 ♀	" " 上牛尾半瀬	27-VI-1993
"	1 ♂ 1 ♀	" " 下牛尾河内	27-VI-1993
② ミドリシジミ	3 ♂ 8 ♀	" " 下瀬加加茂地	20-VI-1993
③ ウラキンシジミ	1 ♀	" " 下牛尾河内	27-VI-1993
④ アカシジミ	2 ♀	" " 下瀬加加茂地	9-VI-1993
"	1 ♀	" " 下牛尾河内	27-VI-1993

“相生市のクロコノマチョウ（その1）”

1988年6月4日、梅雨の合間を縫って相生市矢野町三濃山へ出向いた。今日は米村氏が最近発見したミスジチョウとヒメコブヤハズカミキリをターゲットにして羅漢の里より鍛冶屋川沿いに一路三濃山へと辿った。途中杉林の切れたところにさしかかったところで何か蛾のごときものが路傍のススキに飛来し、葉裏に静止した。よくみると蝶のようでもあり、産卵の態勢にあるように見えたため観察することにした。あれ、クロコノマとちゃうかいなと半信半疑眺めていると、ジャノメ特有の飛びかたでチョンチョンと辺りを徘徊初めネットを出すまでも無いうちに山の上方に飛び去ってしまった。惜しいことをしたなと諦めきれない気持ちのまま、前日来の豪雨で道路も荒れ、蝶影も少ないためコースを中断し羅漢の里で1時間ばかり過ごす。またぞろクロコノマが気になり、目撃地へとって返し、ススキに産卵していないかと捜していると当初の目撃地より約20メートル上流の橋のたもとでクロコノマを再発見。今度こそはとネットを構え、見事ネットインする。当地方における越冬後の成虫（1♀）採集は少ないのではなかろうかと思い、念のため採卵に挑戦してみた。

採卵の結果は次の通り；

6月5日よりジュズダマ（ススキ科）にて採卵する。

6/ 5 14卵、 6/ 6 15卵、 6/ 7 9卵、 6/ 8 17卵、 6/ 9 23卵、
6/10 12卵、 6/11 0卵、 6/12 0卵、 6/13 3卵、 6/14 3卵、
6/15 8卵、 6/16 0卵、 6/17 0卵、 6/18 0卵、 6/19 29卵、
6/20 42卵、 6/21 0卵、 6/22 0卵、 6/23 死亡。

（計：175卵を得た。）

尚、この日目撃した蝶は、

ナガサキアゲハ、モンキアゲハ、アオスジアゲハ、ヒメウラナミジャノメ、アサギマダラ、ムラサキシジミ、アカシジミ、コミスジ、テングチョウ等でターゲットとしたミスジチョウは残念ながら未確認に終わった。

《1988.6 唐土 洋一》

ヒメコブヤハズカミキリ採集記

1988年6月5日、三濃山ヘカミキリムシ等の採集のため、米村氏親子に同伴させてもらった。途中、ミスジチョウを採ったところはこちら等と教えてもらいながらヒメコブのポイントへと連れていってもらう。最初、令息が1♂発見。次に2頭目も、おやじより速く見付けたのに驚き感心する。ここでは倒木等より見出だされ、海拔 300メートル以上には、少ないながらも広く分布しているようだ。因みに、当日の収穫は米村氏3♂♂、令息2♂♂、小生はうんよく1♂1♀。6月11日ミスジチョウの調査にまたもでかける。チョウの方はコミスジばかりでサッパリ。それならヒメコブを捜してみようかとおもいポイントまで足をのぼす。なんと、なんとまたもや同じ倒木で1ペア採。計2♂♂1♀採集した。

《1988.6 唐土 洋一》

兵庫県南西部におけるムラサキツバメの現況（その1）

1. はじめに

ムラサキツバメ（*Narathura bazalus* HEWITSON）が相生市矢野町三濃山山麓で発見（1963年9月1日、1♀）されてから26年たった。当地は現在、「羅漢の里」整備を目的とした市の観光開発等のために大変貌をきたし、ムラサキツバメの貴重な生息地は駐車場に変わり果ててしまい、この蝶の食樹であるブナ科マテバシイ属のシリブカガシも多数伐採されてしまった。

2. 最近の観察例より

- (1) 1989年8月9日9時頃、出光興産・兵庫製油所（姫路市飾磨区妻鹿日田町）構内にて、偶然にも1♂（小破）に遭遇し、手ずかみしようとしたが緑地帯の方に逃げられた。姫路市臨海部には住宅と工場との境界部に、グリーンベルトが設けられており、そこにはこの蝶の食樹であるマテバシイが多数植えられている。念のため姫路市公園環境局緑化係へこれらの木がどこから移入されたのか問合わせたが過去の事とてわからないとの回答があった。因みにこのグリーンベルトは第1期工事として昭和44年から47年にかけて白浜-妻鹿の間、東西2km、幅100～150m、面積にして22.1haが造成されている。

マテバシイは6月頃に花を咲せ、堅果は翌年の秋に熟す。従って、この時期には多数のドングリがなっており、土用芽等はここでは見出す事が出来なかった。

- (2) 1989年8月10日、クロコノマチョウの発生状況確認のため、三濃山へ出掛た。駐車場に車を止めて、ふと前日思いもしなかった蝶に遭遇したことを思いだし、なにげなく林縁のシリブカガシに目がいった。ひょっとしたら、よしムラサキツバメの幼虫を捜してみようと、1～3cm位のシリブカガシの若木数本の新芽、若葉を入念に観察したところ、2令～終令幼虫を14頭確認することが出来た。このうち8頭を飼育のため持ち帰り、内3頭を木村三郎氏に、残り5頭を自宅でシリブカガシを用いて飼育した。

飼育の結果は下表の通り。

	蛹化	羽化	性	蛹期	注 記
1	8月17日	8月26日	1♂	10日	
2	8月18日	8月28日	1♀	11日	
3	9月3日	9月14日	1♀	12日	
4	—	—	—	—	弱令時に死亡
5	—	—	—	—	弱令時に死亡

当地におけるシリブカガシは8月後半～9月に花を咲せ、堅果は翌年の秋に熟す。他のブナ科植物に比し、秋に花をつけるためこの期間に山野を調査すれば、この樹木の分布がわかりやすい。ところで、またこの時期には新芽をも多数つけており蝶の産卵時期として申し分のない頃でもある。

- (3) 1989年9月4日、相生市若狭野町東後明にて、樹高4㍍位のシリブカガシの根元より派生した1.3㍍程のヒコバエより3令幼虫を1頭確認した。ここは、かねてより目をつけていた場所でもあったが、なかなか出掛ける機会がなく、今日まで見過ごして来た。ここでは、シリブカガシは等高線100㍍付近の谷間に生育している。

飼育の結果は下表の通り。

	蛹化	羽化	性	蛹期
1	9月12日	9月26日	1 ♀	15日

3. 過去の観察例より

- (1) これは少し古いデータであるが、1982年8月22日12時30分頃、赤穂市周世坂にて樹高2㍍位のシリブカガシの新芽に産卵中の1 ♀を確認。この♀を採卵用として採集し、自宅にて産卵させ20数卵を得た。尚、この日4 ♀♀を確認したが完品は一つもなかった。またこの樹木より3卵確認、樹下の落葉より蛹殻一つ見出した。

飼育の結果（3例）は下表の通り。

	産卵	孵化	蛹化	羽化	性	幼虫期	蛹期
1	8月22日	8月25日	9月16日	9月30日	1 ♀	23日	15日
2	8月23日	8月26日	9月16日	9月29日	1 ♂	22日	14日
3	8月25日	8月28日	9月18日	10月2日	1 ♀	22日	15日

4. 幼虫の捜し方

幼虫捜しの狙い目は、先ず食痕があるか、葉の裏（たまに表側もある）を内側に巻いているか、かつ、それにアリがまわりついていないか等を一葉々目視確認していく。先ず、食痕であるが弱令期の場合、この蝶の幼虫は繊維質をなめるようにして食するため葉に点々と褐色斑が入り、馴れれば発見は容易であるが、いざ幼虫の姿となったら葉の中に喰込んで保護色を呈しており非常に捜し難い。このため、卵より飼育すれば、1令幼虫時に見失う事が多い。中令期以後になると造巢し、かつその台座をも食し、ときには体の一部が露出したりしているが大抵3匹以上のアリが幼虫の背にまわりついていないため容易に見出すことが出来る。

5. 飼育上の注意点

- (1) 弱令期は若葉の繊維質をなめるように食する。若葉であっても新鮮なものでないと、死亡するものが多くなる。筆者の飼育例では、ビンさしで、4日位使用、古くなる（しおれる寸前）と弱令幼虫は殆ど食せず、はいまわってすべて死んだ。3令以上では、若葉であれば問題なく蛹化まではいくが、新鮮な葉を与えておかないと前蛹時死ぬこともある。終令幼虫の体色が茶褐色を帯びて来ると、2～3日後には蛹化する。そのため、蛹化にそなえ、適当な蓋付容器に取込み、葉をちぎって入れておく上葉上の窪みに、または2～3枚の葉を合せ糸で綴ってその中で蛹化するので、行方不明になることが防げる。
- (2) 1982年度の飼育との相違点
 前回はタッパを使用し、1～2日おき位に食樹をとりにいっていた。今回は食樹をビンさしで与えた。そのためかどうか、弱令幼虫は這い回ってすべて死んだ。弱令期よりの飼育では新鮮な葉を与える必要があり、野外で採集して、飼育する場合は中令以後の幼虫が容易である。
- (3) 食樹シリブカガシはどこにでもある樹木でないため、鉢植え等で持っているところである。ドングリを秋（11月頃）に拾ってき、まけば翌春には発芽する。

6. 採集記録

1989年度までに確認された場所は、下記6ヶ所である。相生市矢野町小河では、シリブカガシ、マテバシイともに見当たらない。尾根を介して東側に位置する鍛冶屋谷より飛来したものとおもわれる。

- | | | | |
|-----------------|------|------------|---------|
| (1) 相生市矢野町三濃山 | 1♂羽化 | 1989年8月26日 | 唐土洋一 |
| (2) 赤穂市周世坂 | 4♀♀ | 1982年8月22日 | 唐土洋一 |
| (3) 相生市矢野町小河 | 1♀ | 1982年7月29日 | 入江智朗 6) |
| (4) 姫路市飾磨区妻鹿日田町 | 1♂目撃 | 1989年8月9日 | 唐土洋一 |
| (5) 相生市若狭野町東後明 | 1♀羽化 | 1989年9月26日 | 唐土洋一 |
| (6) 宍粟郡波賀町小野 | 1♀ | 1983年9月18日 | 勝屋 潤 5) |

(採集月一覧表)

◎：採集 ○：目撃 ☆：飼育（産卵）★：飼育（羽化）

6月			7月			8月			9月			10月			11月	
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中
					◎	○		◎	◎						◎	
								★		★	★					
							☆	-----			★	★				

7. 発生回数について

四国高知付近ではシリブカガシの新芽に4～5月頃産卵がみられ、第1化は6月上・中旬、第2化は7月中旬から、越冬体は9月から出現すると言われている。しかしながら、当地では、いまだ第1化の成虫が採集されていない。これは何を意味しているのだろうか。

この蝶は弱令期に若葉の繊維質をなめるように食する。従って、母蝶が産卵する時期は当然新芽の出る頃となり、当地では春芽、土用芽、秋芽の3回しか産卵のチャンスがない。土用芽は樹木により差異が見受けられ、蛹化に至るまでの絶対量が確保出来るのか疑問でもある。また成虫の生存期間も結構長いものとすれば、その間に産卵に適した新芽を捜し、ダラダラと発生を続けていけば発生回数は2～3回となり、秋芽は10月にはすでに硬葉となり、食樹としては不適である。従って、4回はありえない。そのためにも、ぜひ第1化の発生確認が必要である。

8. 食樹の分布

ブナ科マテバシイ属には、マテバシイとシリブカガシの二種類がある。

(1) マテバシイの分布

①マテバシイは公害に強い木として、街路、公園、墓地等に広く植栽されている。播磨地区には自然状態では分布しない。従って、食樹として評価したとき疑問が残る。しかし、今回姫路市にて目撃したムラサキツバメはどこから飛来したのだろうか。単に偶産蝶としてかたずけてよいものかどうか。一度、この緑地帯を調査してみる必要がある。

(2) シリブカガシの分布

- ①相生市におけるシリブカガシは3ヶ所に分布している。まずは、矢野町三濃山鍛冶屋谷、若狭野町東後明、若狭野町入野にある。いずれも、谷筋に発達している。ムラサキツバメはこのシリブカガシと密接な関係を持っているようだ。
- ②赤穂市からは周世坂が広く知られている。筆者がここでムラサキツバメを発見したときは一部伐採が行われていたが8年たった現在では樹木も成長しシリブカガシ林を形成するに至っている。
- ③揖保郡新宮町善定の松尾神社にも社叢林として保護されているが、ここにムラサキツバメがいるかどうかは、未確認である。

(3) 食樹の芽吹き時期について

- ①昨年シリブカガシ、マテバシイのドングリをとりまきしたところ、どちらも春に発芽した。マテバシイは乾燥に弱いようで、発芽率は非常に悪かった。それに比し、シリブカガシは80%以上の発芽率であった。
- ②鉢植えした食樹で芽吹き状態を比較したところ、マテバシイは10月に秋芽（但し、二葉のみ）を出し、シリブカガシは8月に土用芽、9月に秋芽を出した。食樹として比較すれば断然シリブカガシの方が勝っているようだ。
- ③マテバシイとシリブカガシの芽吹き状態が当地ではどう違うのか、相生市の中央公園に植栽されているマテバシイを観察したところ、10月頃に秋芽と思しきものがみられたが、すべて、ヒコバエよりのものであった。相生市山手の墓地公園では、秋芽は全く見られなかった。羅漢の里にも、マテバシイが数本植栽されているので、芽吹き状態を比較観察してみる必要がある。
- ④四国高知の例ではマテバシイの芽立ちが越冬母蝶の産卵時期より早すぎ、産卵に不適ではないかとの指摘もあるが…。

神戸市近郊における注目すべき蝶 5種の採集記録

山下 剛史

筆者は神戸市に在住しており、郷土の蝶を多くみつめている。そのうち注目すべき種を採集しているので記録しておきたい。

《採集記録》

①ナガサキアゲハ	2 幼虫	神戸市垂水区瑞ヶ丘	24-IX-1992
	1♀10幼虫1蛹	" 須磨区須磨浦公園	26-IX-1992
	1 幼虫	" 垂水区中道通2丁目	6-X-1992
②オオムラサキ	8♂	神戸市北区泉台	8-VII-1990
	2♂1♀	" 北区泉台	15-VII-1990
	1♂目撃	" 西区櫨谷町	15-VII-1990
	2♂4♀	" 北区泉台	21-VII-1990
	2♂	" 北区泉台	30-VI-1991
	1 幼虫	" 西区櫨谷町	2-I-1992
	6 幼虫	" 北区森林植物園	12-I-1992
	2 幼虫	" 西区櫨谷町	25-I-1992
	1 幼虫	" 北区藍那	25-I-1992
	1♀目撃	" 西区櫨谷町	9-VIII-1992
	1 幼虫	三木市志染町大谷	14-III-1993
	1♀	神戸市西区櫨谷町	18-VII-1993
	4♀目撃	" 西区櫨谷町	14-VIII-1993
③クロコノマ	1♂1♀	神戸市西区櫨谷町	2-X-1993
	3♂5♀	" 西区櫨谷町	9-X-1993
	1♂	" 西区櫨谷町	3-XI-1993
	1♂1♀	" 西区櫨谷町	6-XI-1993
	1♀	" 西区櫨谷町	14-XI-1993
④ウスイロコノマ	1♀夏型	神戸市西区櫨谷町	14-VIII-1993
	1♂秋型他1♀目撃	" 西区櫨谷町	24-X-1993

⑤クロシジミ	1 ♂ 7 ♀	加東郡東条町森	3-VII-1988
	12 ♀	" 東条町森	9-VII-1988
	10 ♀	" 東条町森	10-VII-1988
	1 ♀ 他数頭目撃	三木市大村金剛寺	10-VII-1988
	4 ♂ 1 ♀	加東郡東条町森	8-VII-1989
	3 ♂ 15 ♀	" 東条町森	15-VII-1989
	3 ♂ 2 ♀	" 東条町森	24-VI-1990
	1 ♀	" 東条町森	1-VII-1990
	3 ♂ 7 ♀	神戸市西区櫛谷町	1-VII-1990
	6 ♂ 14 ♀	" 西区櫛谷町	5-VII-1990
	3 ♀	" 西区櫛谷町	6-VII-1990
	6 ♀	" 西区櫛谷町	7-VII-1990
	2 ♀	加東郡東条町森	8-VII-1990
	数頭目撃	神戸市北区藍那	18-VII-1993

以上が神戸市近郊における注目すべき蝶5種の記録である。これはすべて自己採集分を列挙しており、他に筆者の弟や友人たちも上記各地にて採集記録が多くあることを報告致します。

日生学園第三高等学校の自然誌発行を計画

鈴木一由

姫昆サロンニュース100号記念特別号の発行が近いので、何か記事がないものかとの事務局の申し出がありました。何分にも私は、昆虫といえば小学生の時に、チョウやセミ、トンボの採集をした程度です。大学では植物生理学を専攻しましたが、その時に日高敏隆先生と石井象二郎先生の昆虫学に造詣の深い先生方の講演会を一度聞いたことがあります。

現在、日生学園第三高等学校に教諭として奉職しております。学園は山中にあり、様々な昆虫、鳥や動物が飛来したり生息しております。近いうちに、それらをまとめて自然誌を発行してみたいという希望を持っております。

皆様に比べますと、レベルに差があり、色々と指導を仰ぎながら本会に貢献できるようにになりたいと思っております。故に本号を機会に、よろしくお願い申し上げます。

ウスイロヒョウモンモドキ採集記

五十嵐喜昭

蝶に取り付かれて3年目の時の筆者は、ウスイロヒョウモンモドキが欲しくてたまらず、1992年7月25日(土)に岡山県恩原高原に産地を求め、午前9時半頃に着いた。ポイントの川を挟んで左側の丘を歩き回ったところ、ウラギンヒョウモン、ミドリヒョウモンが目につくだけで狙いのウスイロは見当たらない。ところがしばらくすると運よくウスイロを発見、ネットインし、幸いにも左側の丘で1♂2♀採集できた。

4年目になった筆者は、1993年7月10日(土)同じ恩原高原に向かうことになった。津山インターから雨がひどくなったのでドライブに切り替えたところ、いつしか同ポイントに着いたころ雨が止み、昼過ぎには晴れ間が見えてきた。その頃になると、ウスイロが道端に止まっているのが目につくようになってきた。ポイントは川を挟んで、前年の逆の右側の丘。牧場の道をうろうろするだけで5♂2♀が採集できた。午前中の採集者は筆者を含め5名。全員で50~70頭採集しているらしい。

ウスイロ採集記3度目は、地元兵庫県杉ヶ沢高原に産地をもとめた。1993年7月23日(金)は、筆者の勤務先の工場が一斉有給となったので、ニンマリして現地へ午前11時ころ着いた。その時には、もうすでに姫路ナンバー、神戸ナンバーの車が乗り入れてあった。晴れ渡る暑い日で、ポイントの拓魂の記念碑の右側から大根畑の農道を、奥へ奥へと歩くうちにボチボチ採れ始めた。特に天滝へ行く手前の湿地帯には多くおり、吸水に来たウスイロを採集。4♂8♀の成果があった。満足した結果のうち半分を和歌山県の蝶友に進呈送付した。

クロコノマチョウ採集記録

五十嵐 喜昭

最近かなりの数が得られていると思われるが、クロコノマチョウを採集しているので記録しておく。筆者は雨上がりの神子畑へオニグルミの若木を探しに笠杉山の谷川沿いを歩いていた。するとススキから岩陰へ飛び立つチョウを発見。よくよく見ると羽化したてのクロコノマ! 難なくネットイン。はじめての完品だった。

《採集記録》

兵庫県朝来郡朝来町神子畑

1 ♀

18-X-1992

五十嵐 喜昭

兵庫県における マダラゴマフカミキリの記録

相馬 明直

少々古い記録ではあるが、筆者は兵庫県では記録がないと思われるマダラゴマフカミキリ *Mesosa poecila* BATES を採集しているので報告しておく。

蛹は原生林斜面にあった広葉樹（樹種不明）の倒木より割り出し、持ち帰ったところ本種が羽化した。近県の記録として奈良県春日山、鳥取県大山、岡山県臥牛山等で採集されている。いずれも原生林を残す環境下で採集されており、西南日本での記録は少ない。

《採集記録》

マダラゴマフカミキリ 兵庫県宍粟郡波賀町赤西 25-IV-1984（蛹採集）
7-V-1984（羽化）

クロコノマチ ヨウ 採集記録 2 例

広畑 政巳

暖地性の蝶で近年分布を拡大している種の 1 つでもある。春季の採集例もあり、ここ数年は各地でかなりの数が採集されている状況をみると、県下でも確実に土着しているものと思われる。

神崎郡市川町では1980年10月5日に同町上牛尾半瀬にて1♂を採集しているが、今年10月9日に1♀を同じ場所で採集している。飾磨郡夢前町の宮置の採集記録も併せて報告する。

《採集記録》

神崎郡市川町上牛尾半瀬	1 ♀	5-X-1993	広畑 政巳
飾磨郡夢前町宮置	1 ♂	11-X-1993	〃

ハチのニュース

三木順一

○ウツギノヒメハナバチ自宅に住みつく。

このハチは山東町の楽音寺に数十万生息しているのは有名です。3回ほど見に行きました。福崎町のシャラの木で知られている応聖寺の境内にも、10年ほど生息していたが、ここ2、3年殆ど見かけません。3年前から自宅の庭に30程噴火口状の巣を作ようになりました。千種町にも発生の記事を新聞で見ました。このハチは日本で唯一種ウツギの花粉しか幼虫の餌にしないという珍しいハチなのです。巣は地中で、成虫を野外で見ると丁度ウツギの開花期の10日程です。刺しても痛くありません。

○福崎町の日本種ミツバチ

町内に日本種の野生ミツバチがいくらか生息しています。10年以上前から生息しているのは、山崎部落の二宮神社のカヤの木の空洞の巣、西大貫の大善寺の墓の墓石の下、七種の滝の肩にあるモミの木の幹、最近見たものは福田部落の小国登志夫方の小祠の中、などです。日本種は病害と寒さに強いのですが、蜜の収量が少なく、よく巣を捨てて逃亡するのが欠点です。

オオセンチコガネ 姫路市での記録

兵庫県ではオオセンチコガネ *Geotrupes (Phelotrupes) aurata* Motschulskyの分布は県下全域に及んでいるように思われる(きべりはむし第21巻第1号)ようである。姫路市ではセンチコガネは多くみられるが、オオセンチコガネの採集例はあまり聞かない。この度筆者は姫路市林田町において犬糞にきていた個体と飛来してきた個体を採集しているので新産地として報告しておく。

オオセンチコガネ 2♂1♀ 姫路市林田町中構 1993-VI-20 col. 相坂耕作

朝鮮半島南部のモンヘビトンボについて

相坂 耕作

Notes on *Neochauliodes sinensis* (WALKER)

on Korean by Kousaku Aisaka

筆者は1993年夏、韓国へ訪問した際モンヘビトンボの死体をひらっているので報告しておく。明地山へ行く途中、京畿道加平郡下面サンバン付近の行楽地の食堂において灯下に飛来したと思われるモンヘビトンボを得たものである。図鑑等ですぐモンヘビトンボとわかったが、さらに詳しく知るべく文献類をあさったところ庵美大島のモンヘビトンボについて（月刊むしNo.228 Feb 1990 林 文男）がみつかった。その文献を読んでいると、モンヘビトンボの分布域(4)と地理的変異(5-11)があり、文中で林文男氏が「翅の斑紋には、地理的変異が認められる。また台湾産のモンヘビトンボは個体変異が大きく、図10に示すような黒化型がみられる。朝鮮半島にはチョウセンヘビトンボ *Neochauliodes Koreanus* WEELE が生息することになっているが、香港産のモンヘビトンボと一部混同しており、WEELE 自身、記載の中で、モンヘビトンボの亜種にすぎないかも知れないと述べている(WEELE, 1909)。松村(1931)に描かれているチョウセンヘビトンボの図をみるかぎり、朝鮮産のものは、斑紋の発達が悪い傾向にあるが、モンヘビトンボだと考えられる。朝鮮および中国大陆のモンヘビトンボ類の標本をお持ちの方は変異の実態を明らかにするためにも、ぜひ発表していただければと思う。」とあり、筆者としてもせっかく朝鮮半島南部のモンヘビトンボを入手しているので、取り急ぎ展翅し、図4-11と比較してみることにした。それが筆者所蔵の(図-1)の各パターンである。

各々個体変異はあるが、図のように京畿道サンバン産は♂♀の違いは別として図4-11からみれば5の対馬産とよく似た傾向を示している。

林文男氏の文中、対馬での成虫(3♂1♀)の採集記録は7月中旬～下旬。石垣島や西表島では4月～7月。台湾では3月～10月に成虫が採集されている。これからいくと朝鮮半島南部韓国はやはり対馬に近く、6月下旬～7月上旬に成虫が羽化したものと思われる。ちなみに死体を拾ったのは1993-VII-10である。

参考文献

林 文男(1990) 月刊むし(228)P14-15

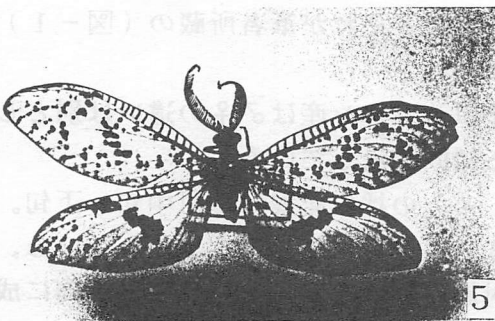
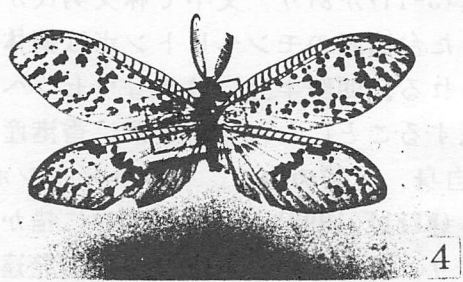
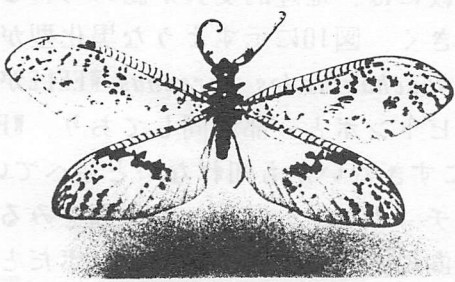
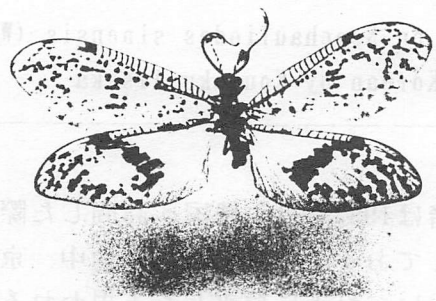
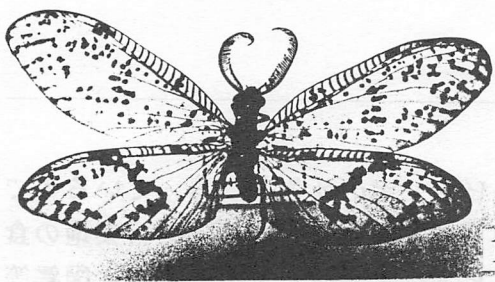


図-1 朝鮮半島南部（韓国）のモンヘビトンボ

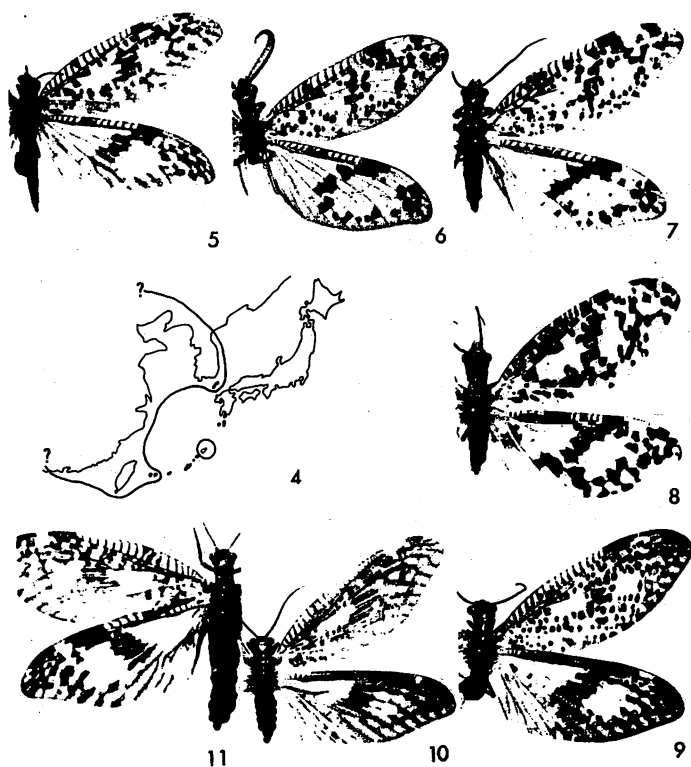


図4-11 モンヘビトンボの分布域(4)と地理的変異(5-11) 5. 対馬産♀ (ASA-HINA, 1970より) 6. 奄美大島産♂ 7. 同♀ 8. 西表島産♀ 9. 台湾産♀ 10. 同黒化型♀ 11. 香港産♀ (張・許, 1979より) [5-11の倍率は一定ではない]

播磨の昆虫 カマキリ分布資料

相坂 耕作

はじめに

カマキリは昆虫のなかでも破格の知名度をもっている。その特異な形態は、昔から人々に強い印象を与えてきた。その証拠に弥生時代の銅鐸にまでカマキリの図柄が登場してくる。

魔性の昆虫のように思われ、ヘビ同様、細長くて柔らかそうな体の持ち主ゆえか、生理的に嫌いな人が多い。生きて動いている餌しか手を出さない昆虫界のハンター、殺し屋カマキリは純肉食性である。

中国では古く、このどうもうな攻撃性から、雌同士を竹の箒に入れ、戦わせる競技があったという。また「韓詩外伝」には、斉の莊公が獵に出た際、一匹のカマキリが両臂（りょうひ）を上げて、馬車の輪をつかまえようとしているのをみて「小虫の勇志また侮（あなど）るべからず」といって、馬車を迂回させた話が載っているという。

ちまたでは「カマキリ夫人」と呼ばれ、悪評の代名詞に使われるカマキリも、生態や分布等あまり詳しくは知られていない。今回、筆者はあまり知られていない播磨のカマキリを研究用に採集した標本で分布を調べてみた。播磨の昆虫を知ろうの一助になれば幸いである。

播磨のカマキリの分布について

播磨地方には次の7種類のカマキリが分布している。ちなみに

- ① ヒメカマキリ *Acromantis japonica*
- ② ヒナカマキリ *Amantis nawai*
- ③ オオカマキリ *Tenodera aridifolia*
- ④ チョウセンカマキリ *Tenodera angusipennis*
- ⑤ ウスバカマキリ *Mantis religiosa*
- ⑥ コカマキリ *Statilia maculata*
- ⑦ ハラビロカマキリ *Hierodula patellifera*

日本に分布するほとんどが知られている。日本にはほかに南西諸島にオキナワオオカマキリ、スジイリコカマキリ、ヤサガタコカマキリが分布している。

① ヒメカマキリ *Acromantis japonica* (ヒメカマキリ科)

体長30mm内外。緑色と褐色の2型がある。本州(山形県以西)、四国、九州、南西諸島などに分布する。林内に生息し、林縁から遠く離れることはない。一般に夏から秋に出現する。南西諸島では5～7、9～11月に確認されている。ただ一例播磨地方付近で5月初旬に成虫をピーティングにて得たことある。樹上性で♂はよく飛ぶ。卵塊は樹幹、樹皮、土から裸出した根などに産みつけるという。

《採集例》

ヒメカマキリ	1 ♂	兵庫県揖保郡新宮町宮内	3-X-1989
	1 ♀	〃 多可郡黒田庄	28-VI-1992
	1 ♂	佐用郡佐用町奥海	13-IX-1992



ヒメカマキリ 揖保郡新宮町新宮産

② ヒナカマキリ *Amantis nawai*〔カマキリ科〕

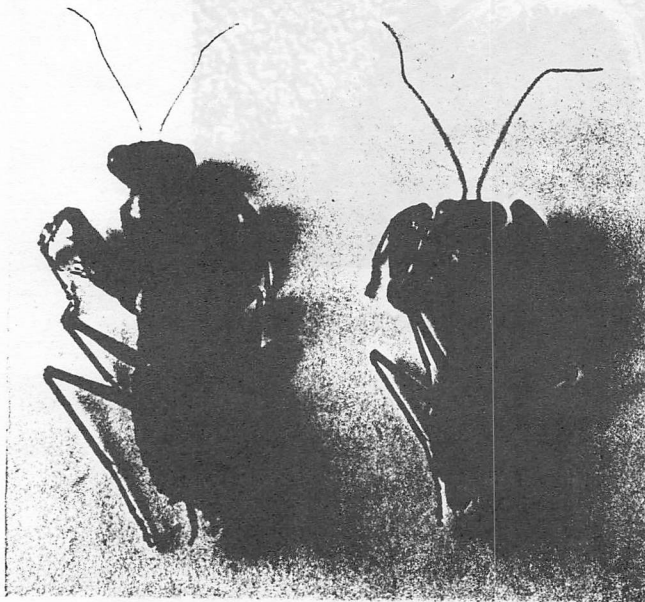
体長15mm内外。緑色型はみつかっておらず、褐色型のみ知られている。本州、四国、九州などに分布する。単為生殖(注1)をされると考えられていたが、1978年奈良県で♂が発見され、その後三重県でもみつかった。成虫は夏から秋にかけ出現する。主に常緑広葉樹林にすみ、地上を徘徊し、行動は活発である。

播磨地方では筆者が赤穂市において交尾中の本種を発見した。翅は退化して雌雄とも爪状。

(注1)単為生殖……一般に、昆虫類は♂♀がおり、交尾してから子孫を増やす。これを「両性生殖」という。ところが昆虫類のなかには♂がおらず♀だけで卵を産み、子孫を残すことがある。これを「単為生殖」または「処女生殖」とよぶ。なかには両性生殖が普通なのに、状況によって単為生殖を行なう昆虫類もある。ナナフシ類がよく知られている。

《採集例》

ヒナカマキリ	1♂1♀	赤穂市坂越	28-X-1990
	卵塊	"	28-X-1990
	卵塊(顕産卵)	"	7-XI-1991
	卵塊	飾磨郡家島町宮	22-II-1991



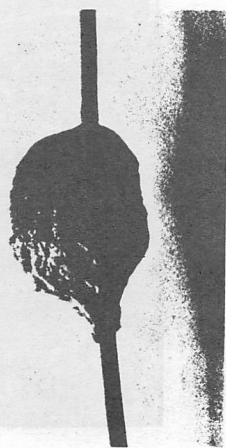
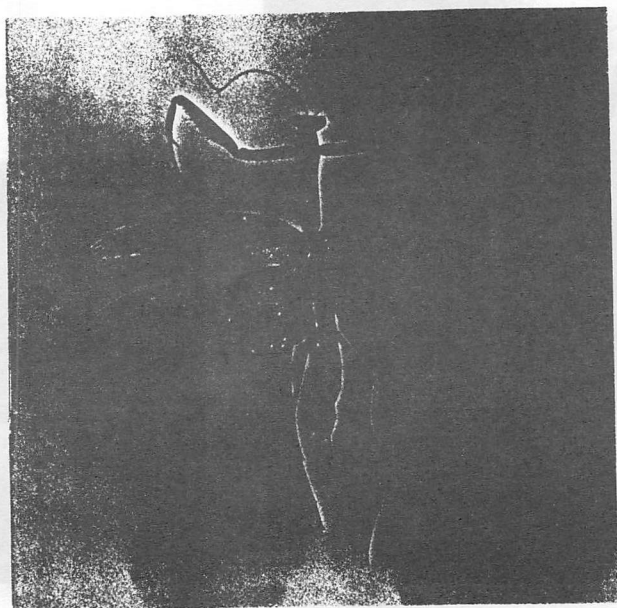
ヒナカマキリ 赤穂市坂越産 右♂左♀

③ オオカマキリ *Tenodera aridifolia* (カマキリ科)

体長85mm内外。緑色と褐色の2型がある。日本産カマキリの中の最大種。林の周辺やススキ、ネザサなどイネ科植物の生える草地に多く生息する。また卵塊はそれらの茎に産む。主に生きている昆虫類を捕食する。人が近付くと前後翅を背の上に立て威嚇姿勢をとることが多い。分布はマレーシアやインドなど東洋熱帯を中心に分布している。播磨地方においても、次種と共に最も普通にみられる種類の一つである。後翅が紫褐色でちらばり、次種と区別できる。

《採集例》

オオカマキリ	1 ♂	赤穂市御崎丸山海岸	3-X-1982
	1 ♀	姫路市広畑区才	25-IX-1985
	1 ♂	宍粟郡波賀町音水溪谷	23-IX-1986
	1 ♀	姫路市飾磨区入船	24-IX-1986
	1 ♀	加西市青野ヶ原	28-IX-1986
	1 ♀	揖保郡揖保川町馬場	11-X-1990
	1 ♀	姫路市書写山	3-XI-1990
	1 ♀	姫路市本町	5-XI-1990
	1 ♂	加西市青野ヶ原	17-XI-1990



オオカマキリ 姫路市飾磨区産 卵塊

④ チョウセンカマキリ *Tenodera angustipennis* [カマキリ科]

体長85mm内外。緑色と褐色の2型がある。和名のおこりは、南方系のオオカマキリに対して本種の分布が朝鮮、華北など北によっていることにもとづく。前種との違いは後翅の前縁部と中央部に並ぶ濃褐色短条が特徴となってる。日本全土（岩手県以西）に分布し、播磨各地に最も普通なカマキリの1種である。成虫は夏から秋にかけ出現し、主に生きた昆虫類を捕食している。草地や畑地、河川敷の草原、工場の埋め立て地などに生息し、都市部でもけっこうみられる。

《採集例》

チョウセンカマキリ	1 ♀	姫路市飾磨区入船	19-X-1981
	1 ♂ 1 ♀	姫路市広畑区才	29-VI-1985
	1 ♂	姫路市大津区天満	20-X-1985
	1 ♂	加西市青野ヶ原	28-IX-1986
	1 ♂	加西市青野ヶ原	17-XI-1990



チョウセンカマキリ 加西市青野ヶ原 卵塊

⑤ ウスバカマキリ *Mantis religiosa* (カマキリ科)

体長60mm内外。緑色と褐色の2型がある。しかし、どちらも乳白色味をおびた色になる。和名のおこりは、薄い翅にちなみ前翅、後翅とも半透明である。世界中に広く分布しており、日本では北海道(南部)から、本州、四国、九州などに分布している。しかし播磨地方では珍しく、あまり分布していないようである。草地や河川敷の草原など開けた環境にすむが、時には人工的な環境も好むという。播磨地方では、あまり人の入らない草地にてみつけた。

《採集例》

ウスバカマキリ

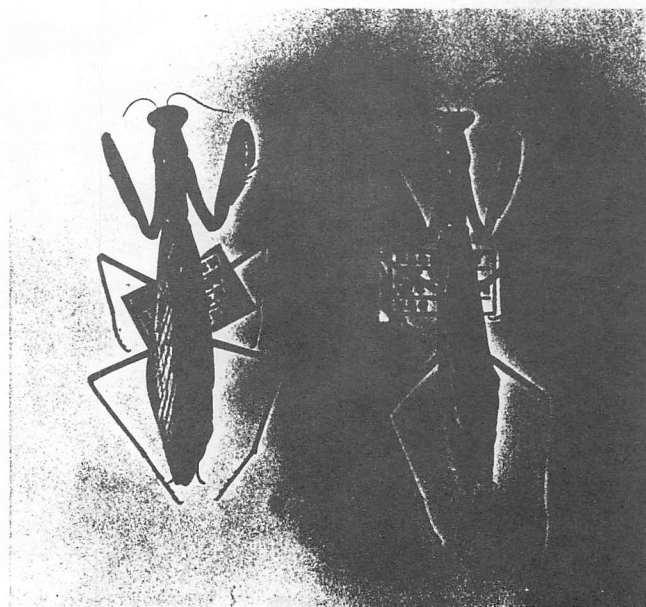
2♂3♀(2♀褐色型)

加西市青野ヶ原

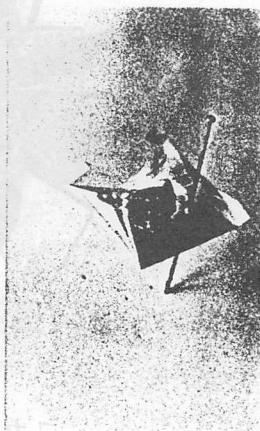
15-IX-1986



獲物をまつウスバカマキリ
加西市青野ヶ原



ウスバカマキリ 加西市青野ヶ原



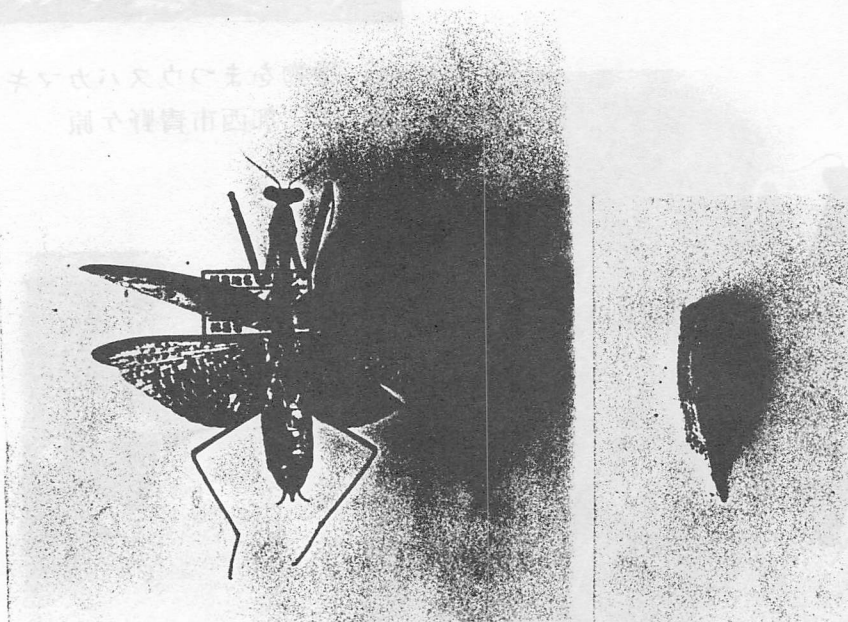
卵塊

⑥ コカマキリ *Statilia maculata* [カマキリ科]

体長50^ミ内外。緑色と褐色の2型がある。褐色型には薄い黄土色から暗褐色まで、いろいろな色パターンがあり、個体差が大きい。後翅は体色と同じ褐色で網目状の模様が美しい。緑色型の個体は少なく、播磨地方でもみつからない。本州（山形県、宮城県以西）、四国、九州などに分布する。成虫は夏～秋にかけ出現する。播磨地方では最も普通のカマキリで林内、河川敷の草原、畑地、墓地、住宅地など広くみられ、地上を徘徊していることが多い。

《採集例》

コカマキリ	1 ♂	姫路市入船町	2-X-1985
	1 ♂ 1 ♀	姫路市林田町八幡神社	10-XI-1985
	1 ♀	小野市青野ヶ原	15-IX-1986
	1 ♂	竜野市竜野町竜野公園	11-X-1986
	1 ♂	揖保郡揖保川町馬場	11-X-1990
	1 ♂ 1 ♀	揖保郡御津町室津	21-X-1990
	1 ♀	加西市青野ヶ原	17-XI-1990



コカマキリ 竜野市産

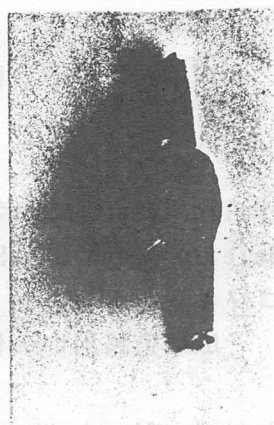
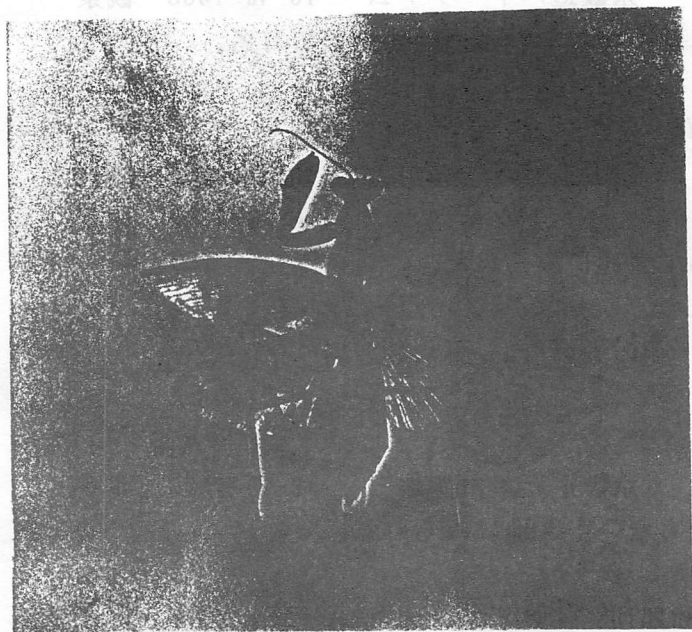
卵塊

⑦ ハラビロカマキリ *Hierodula petellifera* (カマキリ科)

体長60mm内外。緑色と褐色の2型がある。しかし播磨地方ではほとんど緑色型である。和名のおこりは、体がずんぐりして、全体に幅広い特徴からだろう。東洋熱帯を中心に分布し、本州、四国、九州などに分布している。播磨地方では、奥地の山地よりも海岸に近いような南部に多くみられるようである。8～11月にかけて出現。林や田にも入り低木に多い。卵のうは、だ円球形、木の幹や枝に産みつけられる。

《採集例》

ハラビロカマキリ	1 ♀	竜野市揖西町竹万	17-X-1987
	1 ♂	竜野市竜野町竜野公園	15-XI-1987
	1 ♂ (褐色型)	姫路市飾磨区入船町	2-X-1988
	1 ♀	揖保郡揖保川町馬場	24-IX-1990
	1 ♀	揖保郡御津町室津	14-X-1990
	1 ♀	赤穂市坂越	11-XI-1990



ハラビロカマキリ 赤穂市坂越産

卵塊

朝鮮半島南部の蜻蛉相一資料

相坂 耕作

日本の蜻蛉相を調査するには近くの朝鮮半島、台湾など重要な位置にあることは今さら言うまでもない。しかし、この地域からはあまり知見が出てこず不十分そのものである。

筆者は僅かな記録ではあるが朝鮮半島南部韓国において、1993年蜻蛉を観察した。そのおりの記録と、生態写真専門の虫友、壺坂孝一氏が撮っているものを提供してもらい資料として報告しておく。

Zygoptera 均翅類

I. Agrionidae イトトンボ科

Ischnura asiatica (BRAUER)

アジアイトトンボ ♂♀ 京畿道加平 10-VII-1993 観察
最も普通種のように水溜まりに多数飛んでいた。

II. Calopterygidae カワトンボ科

Calopteryx japonic SELYS

アオハダトンボ ♂ 京畿道ハド・クアム 10-VII-1993 観察
朝鮮半島より最初に知られたトンボの種類として有名。

Calopteryx atrata SELYS

ハグロトンボ ♂♀ 京畿道ハド・クアム 10-VII-1993 観察
" トクヘン 10-VII-1993 観察
川すじに多く、極めて普通にみられた。

Anisoptera 不均翅亜目

III. Libellulidae トンボ科

Deilinia phaon SELYS

コフキトンボ ♂ 京畿道九里市西端 10-VII-1993 観察
広い道路沿いの何でもない空き地にみられた。

Pantala flavescens FABRICIUS

ウスバキトンボ ♂♀ 京畿道加平明地山 10-VII-1993 観察
" 九里市大谷 10-VII-1993 観察
" 九里市西端 10-VII-1993 観察
" ソウル市 11-VII-1992 撮影

世界に広く分布する種らしく、各地に多くみられた。

Lyriothemis pachygastra SELYS

ハラビロトンボ♂♀	京畿道九里市大谷	10-VII-1993	観察
	加平サンパン	10-VII-1993	観察

平地の細流付近にみられた。

Orthetrum albistyrum speciosum UHLER

シオカラトンボ♂	京畿道九里市西端	10-VII-1993	観察
----------	----------	-------------	----

広い道路沿いの空き地にてみられた。

Orthetrum triangulare melania SELYS

オオシオカラトンボ♂	京畿道ソウル	24-VII-1991	撮影
	"	11-VII-1992	撮影

Orocothemis servilia DRURY

ショウジョウトンボ♂	京畿道ハド・クアム	10-VII-1993	撮影
------------	-----------	-------------	----

10メートルくらいある川沿いに多くみられた。

Sympetrum depressiusculum SELYS

タイリクアキアカネ♂♀	京畿道ハド・クアム	10-VII-1993	観察
-------------	-----------	-------------	----

川沿い、その他荒れ地に多くみられた。しかし、日本産アキアカネと区別の難しいものが多くあり、今後の課題でもある。一応タイリクアキアカネと同定しておく。

Sympetrum eroticum eroticum SELYS

マユタテアカネ♂	京畿道サンパン	10-VII-1993	観察
----------	---------	-------------	----

細い流れの樹上にてみられた。

Sympetrum darwinianum SELYS

ナツアカネ♂	京畿道九里市大谷	10-VII-1993	観察
--------	----------	-------------	----

細い川沿いでみられた。

Sympetrum pedemontanum elatum SELYS

ミヤマアカネ♂♀	京畿道ソウル市	24-VII-1991	撮影
	" ソウル市	11-VII-1992	撮影

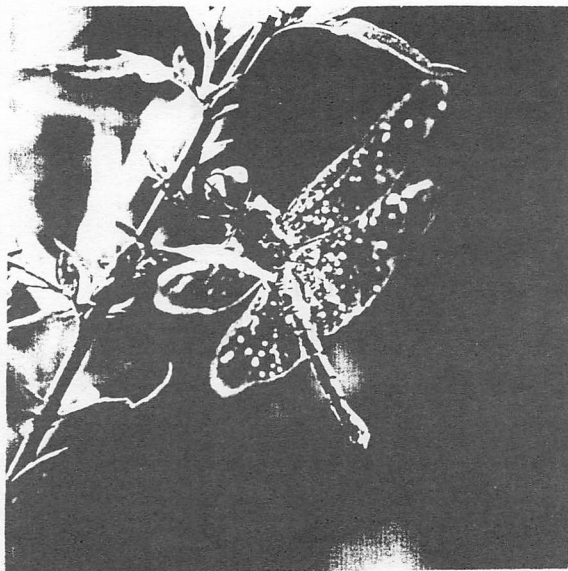
IV. Corduliidae エゾトンボ科

Macromia

コヤマトンボ s p.

京畿道ハド・クアム 10-VII-1993 観察

中流の川に沿って広がる平たい空き地に数多く上空を巡回していた。日本のオオヤマトンボやコヤマトンボの飛びかたではない。



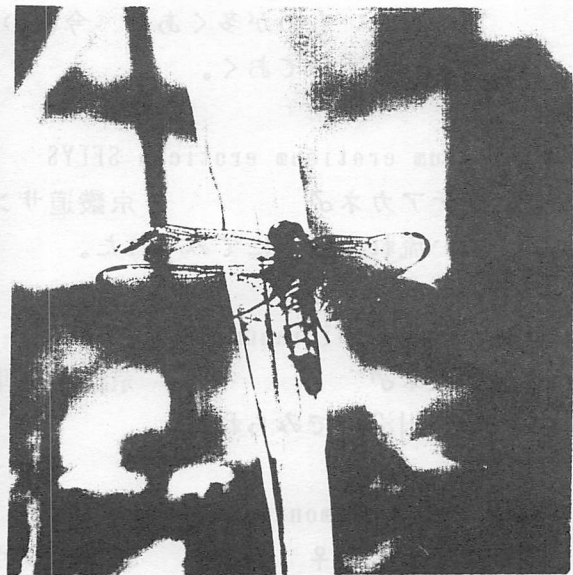
ウスバキトンボ 京畿道ソウル市



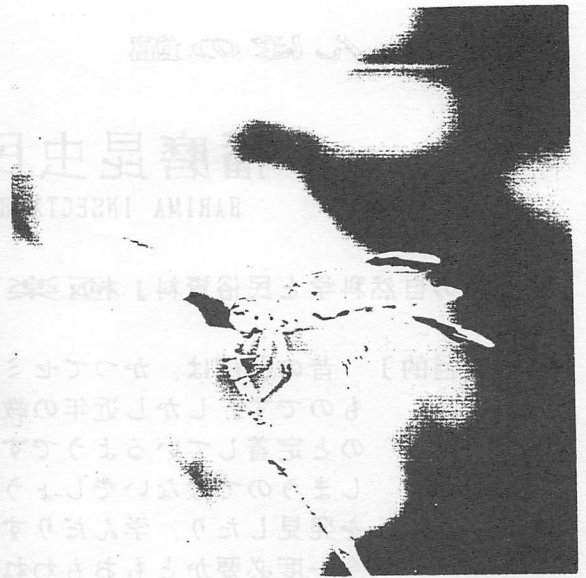
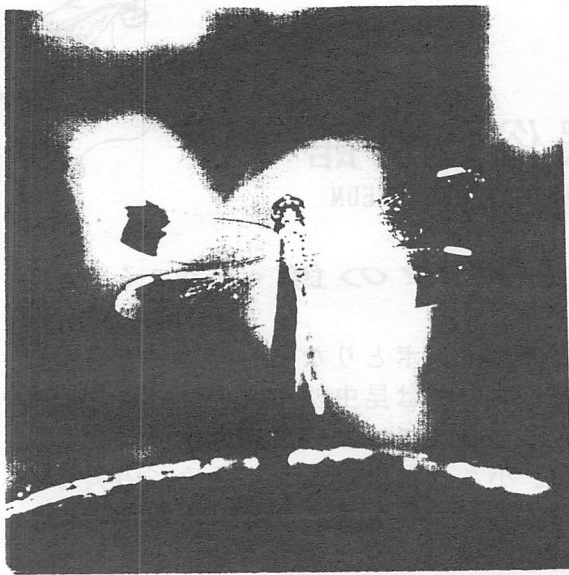
ショウジョウトンボ 京畿道ハド・クアム



オオシオカラトンボ 京畿道ソウル市



オオシオカラトンボ 京畿道ソウル市



ミヤマアカネ 京畿道ソウル市

ミヤマアカネ 京畿道ソウル市

播磨昆虫民俗資料館

HARIMA INSECTA HISTORICAL MUSEUM



『昆虫の自然科学と民俗資料』極楽とんぼの館へようこそ

〔設立目的〕 昔の子供は、かつてセミとり、トンボとりなどして昆虫と遊んだものです。しかし近年の教育においては昆虫採集など、いけないものと定着しているようです。このままでは古い昆虫文化が断絶してしまうのではないのでしょうか。小さな昆虫のなかに色や形の美しさを発見したり、学んだりすることが高度成長に明け暮れた日本にも今一度必要かともおもわれます。当館を設立することにより昆虫の自然科学知識と民俗的知識を培うことを目指したいとおもいます。

〔主な特徴〕 地域の自然を加味しながら、生物学的、歴史的に理解しやすく展示し、暮らしと昆虫、害虫と益虫、昆虫民俗を中心に昆虫館機能をもたせた展示をしています。とくに昆虫にまつわる玩具、民具、民芸、工芸品などグッズ類は市井の人々の虫への関心の有りようをさぐるのに相応の意味があるように思われます。近年、虫嫌いの人々の急増は、虫の工芸品や玩具類まで消滅させつつあります。消えゆく“民俗的昆虫”たちを集めて当館は文化的事業をめざしたいとおもいます。

このように播磨昆虫民俗資料館は昆虫の自然科学と暮らしにまつわる昆虫の民俗を中心に昆虫館としてできています。

第一展示室は昆虫標本展示コーナーとなっています。昆虫化石や世界のチョウ、郷土の昆虫などを展示しています。また、企画展、特別展のコーナーとなっています。常設として郷土の昆虫風が飾られています。

第二展示室は昆虫にまつわる民俗資料のコーナーとなっています。民芸品、工芸品、玩具、生活防虫道具などがおかれています。また、このコーナーには昆虫宮殿があり、暮らしと昆虫のかかわりが展示してあります。

第三展示室は郷土の偉人コーナーとして、生物学者 森為三博士の蒐集された文献、著書などの資料が展示されています。

第四展示室は珍竹林コーナーとして、竹でできた昆虫民芸品、及び郷土が輩出した世界的竹学者 室井紳博士の竹文献資料などが展示してあります。竹の地下茎にちなみ地下室になっています。

【当館の主な事業】

- ・ 資料館資料の充実と収集。保管整理と展示。
- ・ 講演会、講習会、研究会等の開催。
- ・ 資料館資料に関する調査研究、並びに刊行物の発行。
- ・ 昆虫の飼育

【ご利用の御案内】

- ・ 開館日時 毎月、第2土曜日と第2日曜日。その他、祝祭日、日曜日など電話にて予約受付し随時に観覧願う。
- ・ 開館時間 午前10時～午後5時
- ・ 入館料 無料
- ・ お問い合わせさき

〒678-12 赤穂郡上郡町岩木堂ノ元394番地

播磨昆虫民俗資料館 07915-2-6089

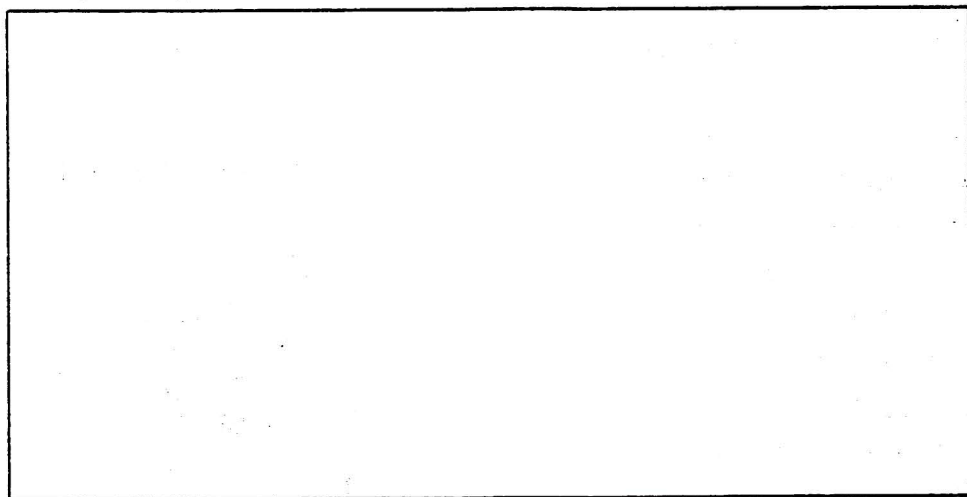
また 〒671-11 姫路市

相坂耕作

0792-36-

まで

【交通案内図】



【交通】

- ・ 車で……国道2号線有年より国道373号線上郡へ
- ・ JRで…山陽本線上郡駅下車タクシーで約5分

展示案内

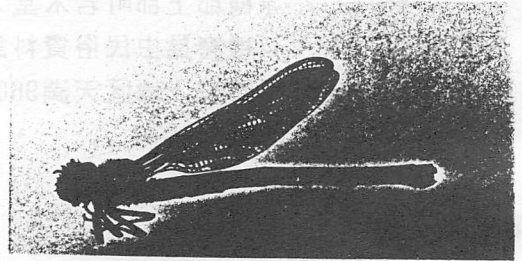
第1展示室 昆虫の世界

昆虫ほどいろんな環境に適応して、繁栄している生物は他にありません。これから世界の昆虫をながめながら、郷土の昆虫を見てみましょう。

- ①世界の昆虫
- ②日本の昆虫
- ③播磨で見られる身近な昆虫
- ④特徴ある昆虫
- ⑤害虫、益虫など
- ⑥化石になった昆虫

化石昆虫ムカシトンボ

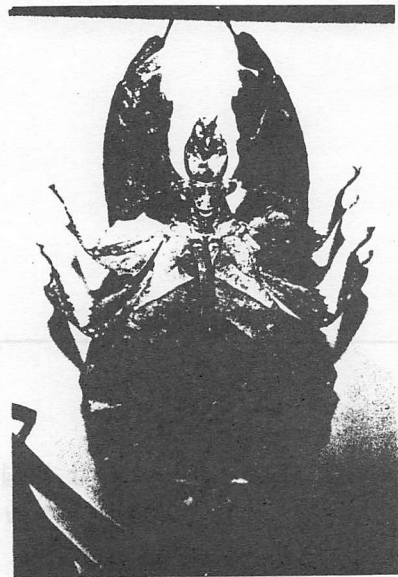
ムカシトンボのなかまは、1億5千万年前ころに栄え、60種近くの化石を残して、ほとんど絶滅してしまいました。現存種は日本のムカシトンボとヒマラヤに生息するヒマラヤムカシトンボが知られています。



ヒマラヤムカシトンボ

絶滅危惧種ベッコウトンボ

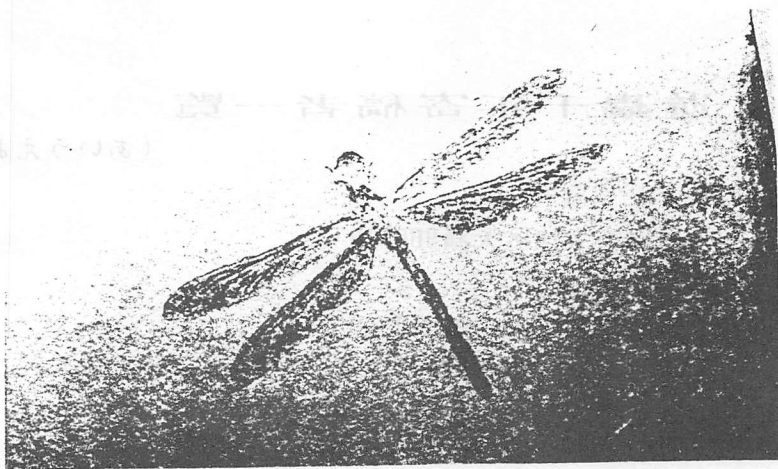
このトンボの生息地は都市化により開発、埋め立てなどで多くの生息地が失われてしまいました。数多くの昆虫のなかで、もっとも絶滅の可能性の高い種類とされています。



擬態で有名コノハムシ

熱帯アジアに分布するコノハムシは木の葉そりの姿に進化して身を守っています。

コノハムシ



トンボの化石

第2展示室 昆虫の民俗

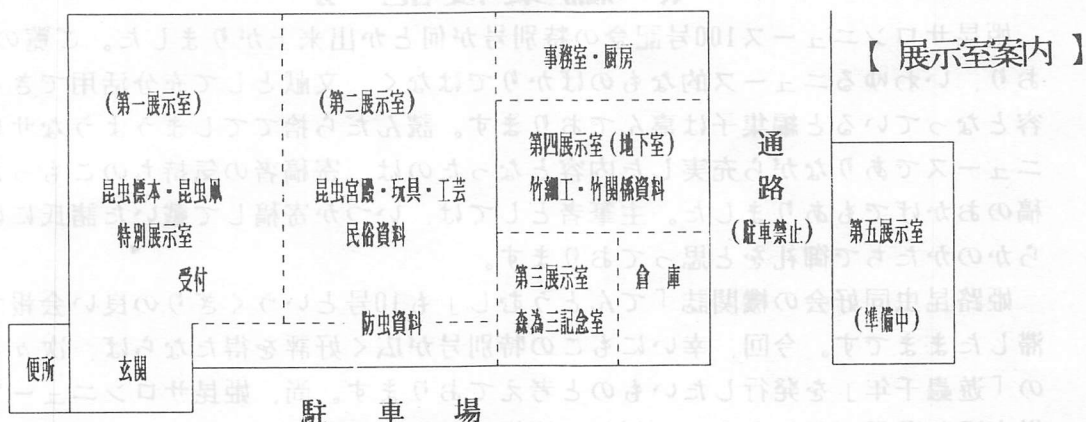
昆虫もわれわれの生活のなかに暮らしと密接に関係しています。これらから、民芸、工芸、玩具などをみてみましょう。

第3展示室 森為三博士記念室

姫路市出身で、勲2等瑞寶賞を受けられた初代兵庫県生物学会会長の森為三博士。その理学博士証書及び各種の記章、また戦前の著書「朝鮮の蝶類」などが展示してあります。

第4展示室 珍竹林

竹でできた昆虫民芸品、竹ひごの虫簞などがみられます。また郷土、上郡出身の竹学者室井綽博士の竹文献、珍品の竹標本をみてみましょう。



遊蟲千年寄稿者一覽

(あいうえお順)

相坂 耕作

五十嵐 喜昭

大貝 秀雄

近藤 伸一

鈴木 一由

相馬 明直

花岡 正

広畑 政巳

三木 順一

唐土 洋一

山下 剛史

《 編集後記 》

姫昆サロンニュース100号記念の特別号が何とか出来上がりました。ご覧のとおり、いわゆるニュース的なものばかりではなく、文献として充分活用できる内容となっていると編集子は喜んでおります。読んだら捨ててしまうようなサロンニュースでありながら充実した内容となったのは、寄稿者の気持ちのこもった原稿のおかげでもありました。主筆者としては、いつか寄稿して戴いた諸氏には何らかのかたちで御礼をと思っております。

姫路昆虫同好会の機関誌「てんとうむし」も10号というくぎりの良い会報で停滞したままです。今回、幸いにもこの特別号が広く好評を得たならば、次々この「遊蟲千年」を発行したいものと考えております。尚、姫昆サロンニュースも従来通り発行いたしますので新しい情報をとどしどしお寄せ下さい。主筆者

－姫昆サロンニュース100号記念－ 特別号

「遊蟲千年」

発行日／1994.Ⅱ.10

主筆・編集者／相坂 耕作

姫昆サロンニュース連絡先／

〒671-11 姫路市

発行／飾磨郡夢前町

相坂耕作

姫路昆虫同好会